


A2 : 100%
A3 : 70.7%縮尺

R 6 住宅 矢三野神本団地 徳・南矢三 3号棟外壁塗装改修工事

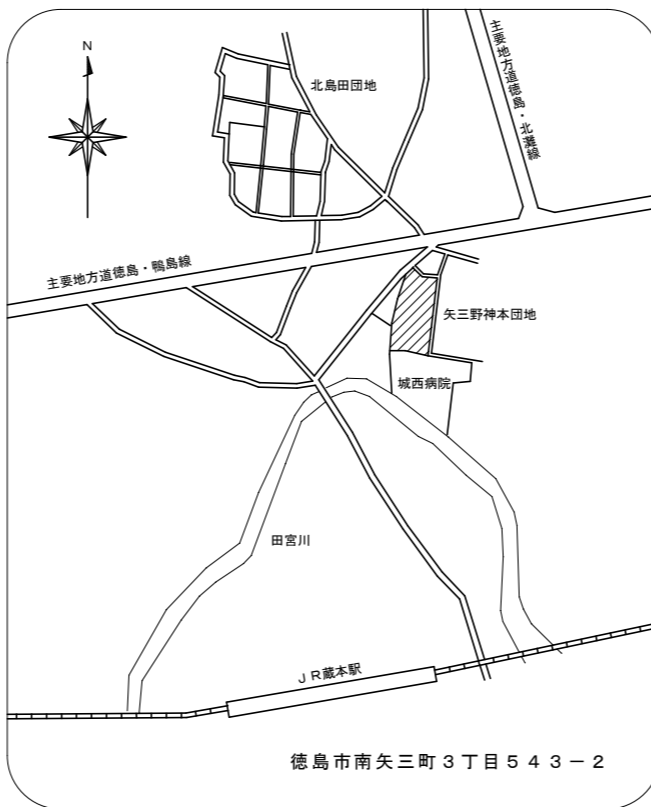
建築図面			
共-001	営繕工事共通仕様書 1	B-015	3号棟 断面詳細図 1
-002	営繕工事共通仕様書 2	-016	3号棟 断面詳細図 2
-003	営繕工事共通仕様書 3		
B-001	3号棟 改修特記仕様書 1		
-002	3号棟 改修特記仕様書 2		
-003	付近見取図・配置図		
-004	3号棟 1階平面図 (仮設計図)		
-005	3号棟 基準階平面図 (2階~5階)		
-006	3号棟 屋根伏図		
-007	3号棟 北西立面図		
-008	3号棟 南東立面図		
-009	3号棟 外壁クラック等調査図 (北西立面)		
-010	3号棟 外壁クラック等調査図 (南東立面)		
-011	3号棟 断面図		
-012	3号棟 建具配置図・建具表		
-013	3号棟 階段室展開図 1		
-014	3号棟 階段室展開図 2		

課長	副課長	課長補佐	課長補佐	係長	課員	担当

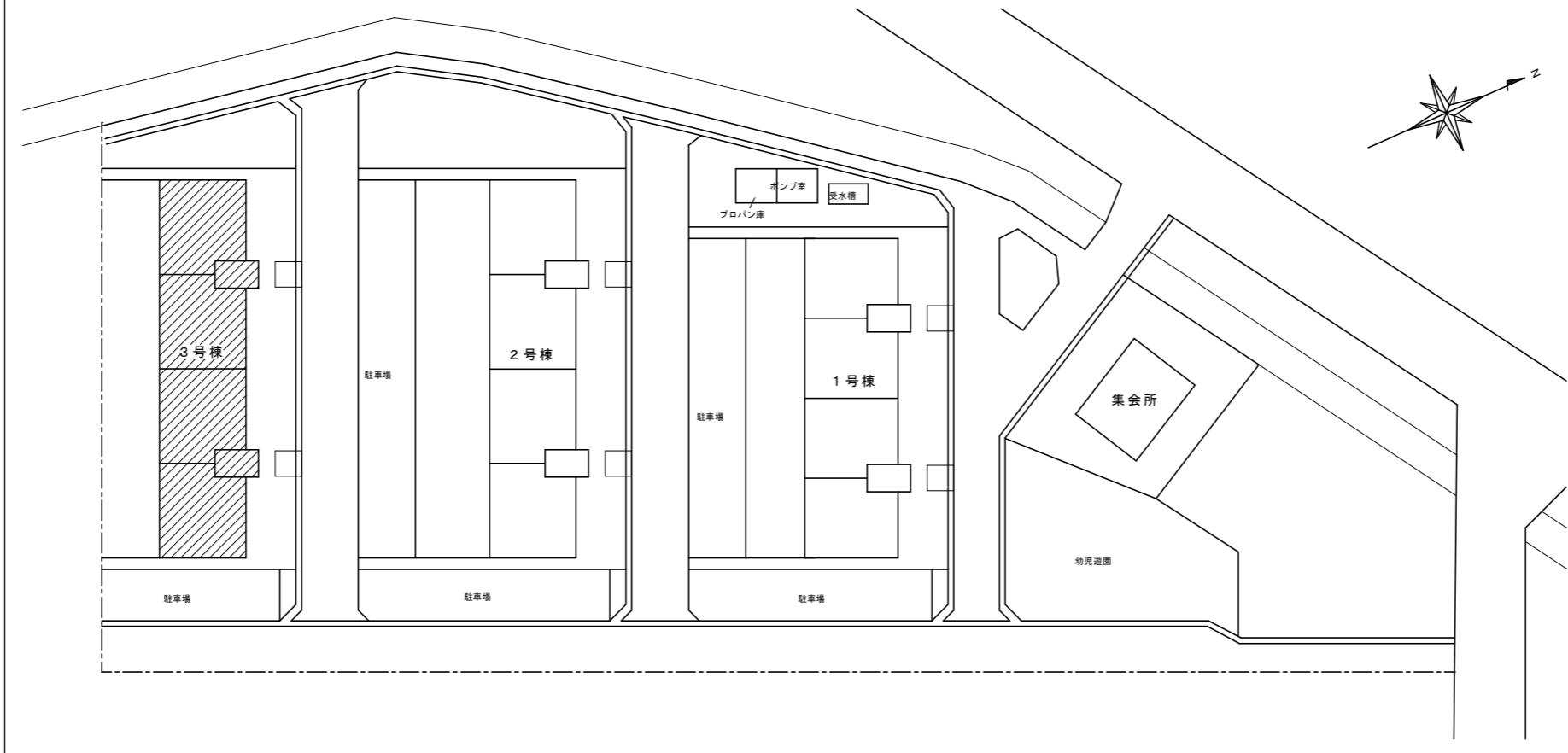
章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項							
一 章 一 般 共 通 事 項	22. 完成図等	<p>◎電子納品：対象</p> <p>◎受注者は、原則として「徳島県電子納品運用ガイドライン【建築工事編】」に基づいて調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品（以下「電子納品」という。）すること。</p> <p>◎提出書類 ・竣工図（製本2部、電子データ2部）（サイズ：監督員から別途指示による） ・工事写真（写真帳1部（電子データ2部）） ・使用材料一覧表（竣工図表紙裏面に貼付、電子データ2部） ・保全に関する資料 ・その他監督員が指示する図書（必要部数）</p> <p>◎しゅん工図は関係図面（データ貸与）を修正して作成すること。 しゅん工図データは、関係図面（データ貸与）を修正して作成し、PDF形式、SFC形式及びオリジナル形式をCD-R等に保存する。</p> <p>◎工事写真の電子データは完成写真、着手前、資機材、施工状況の順に整理する。 完成写真については、工事目的物の状態が、資機材、施工状況等については、不可視部分の出来形が写真で的確に確認できること。</p> <p>◎工事写真の撮影は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領」によること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>サ イ ズ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>着 手 前</td> <td>カラー、手札版又はサービスサイズ</td> </tr> <tr> <td>施 工 中</td> <td>カラー、手札版又はサービスサイズ</td> </tr> <tr> <td>完 成 写 真</td> <td>カラー、手札版又はサービスサイズ</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎工事完成撮影は、専門家に（よる・<u>よらない</u>）ものとする。</p>	区 分	サ イ ズ	着 手 前	カラー、手札版又はサービスサイズ	施 工 中	カラー、手札版又はサービスサイズ	完 成 写 真	カラー、手札版又はサービスサイズ					
区 分	サ イ ズ														
着 手 前	カラー、手札版又はサービスサイズ														
施 工 中	カラー、手札版又はサービスサイズ														
完 成 写 真	カラー、手札版又はサービスサイズ														
	23. デジタル工事写真の 小黒板情報電子化	<p>◎受注者は、デジタル工事写真の小黒板情報電子化の実施を希望する場合は、監督員の承諾を得たうえで、デジタル工事写真の小黒板情報電子化対象工事（以下、「対象工事」という）とすることができる。</p> <p>◎対象工事は、徳島県CALS/ECホームページ掲載の「デジタル工事写真の小黒板情報電子化の運用について（県土整備部）」に記載された全ての内容を適用することとする。</p>													
	24. 火災保険	<p>◎火災保険 本工事の着手に際し、火災保険等（火災保険、建設工事保険その他の保険（これに準ずるものを含む。））を請負額に応じて付保する。（標準請負契約約款 第55条）</p> <p>(1) 対象物 工事目的物及び工事材料（支給材料を含む）について付保する。</p> <p>(2) 付保除外工事 次に掲げる単独工事については、付保を除外できる。 ・杭及び基礎工事 ・コンクリート躯体工事 ・屋外付帯工事 ・その他実状を判断のうえ必要がないと認めた場合（外壁補修工事等）</p> <p>(3) 付保する時期及び金額 鉄筋コンクリート造の場合は躯体工事完了時に、木造及び鉄骨造の場合は基礎工事完了時に、請負金額相当額を付保する。また、模様替え工事等については、工事着手時に請負金額相当額を付保する。</p> <p>(4) 保険終期 工事完成期日に14日を加えた期日とする。なお、工期延伸した場合には保険の期間も延長する。</p> <p>(5) その他 ・付保する時期以降に出来高払を行う場合は、受注者は保険契約の証券の写しを出来高払の書類に添付する。 ・建設工事保険に付保した場合は、火災保険に付保したものとみなす。</p>													
	25. 公共事業労務費調査	<p>◎当初請負対象金額（設計金額）が税込1,000万円以上の工事において、公共事業労務費調査の対象工事となった場合は、受注者は、調査票等に必要事項を正確に記入し調査団体に提出する等、必要な協力を行わなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。調査票等を提出した事業者を調査団体が事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合、受注者は、その実施に協力しなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。</p> <p>公共事業労務費調査の対象工事となった場合に正確な調査票等の提出が行えるよう、受注者は、労働基準法等に従って就業規則を作成すると共に賃金台帳を調製・保存する等日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。</p> <p>受注者が本工事の一部について下請契約を締結する場合には受注者は、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請人を含む）が前述と同様の義務を負う旨を定めなければならない。</p>													
	26. 暴力団からの不当要求 又は工事妨害の排除	<p>(1) 受注者は、工事の施工に関し、暴力団等からの不当要求又は工事妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合（（2）に規定する場合は、下請負人から報告があったとき）には、その旨を直ちに発注者に報告するとともに、併せて所轄の警察署に届け出なければならない。</p> <p>(2) 受注者は、本工事の一部を下請に付する場合、下請工事の施工に関して下請負人が暴力団等からの不当介入を受けたときは、受注者にその旨を報告することを義務付けなければならない。</p> <p>(3) 受注者は、発注者及び所轄の警察署と協力して不当介入の排除対策を講じなければならない。</p> <p>(4) 受注者は、排除対策を講じたにもかかわらず、工期に遅れが生じるおそれがある場合には、発注者と工程に関する協議を行い、その結果、工期内に工事が完成しないと認められる場合は、「徳島県公共工事標準請負約款」（以下「約款」という。）第22条の規定により、発注者に工期延長の請求を行わなければならない。</p> <p>(5) 受注者は、暴力団等から不当介入による被害を受けた場合は、その旨を直ちに報告し、被害届を速やかに所轄の警察署に提出しなければならない。</p> <p>(6) 受注者は、前項被害により、工期に遅れが生じるおそれがある場合は、発注者と工程に関する協議を行い、その結果、工期に遅れが生じると認められた場合は、約款第22条の規定により、発注者に工期延長の請求を行わなければならない。</p>													
			徳島県県土整備部住宅課	工事名 R 6 住宅 矢三野神本団地 徳・南矢三 3号棟外壁塗装改修工事 図面名 営繕工事共通仕様書 3	図面番号 共-003 縮尺 NO SCALE	 <p>(株)林建築事務所 一級建築士登録 第100387号 林 茂樹 徳島市南二軒屋町二丁目3番3-301号 TEL 654-0359 FAX 623-7425</p>									

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																									
5章 外壁改修工事		6章 塗装改修工事		8章 環境配慮(グリーン)改修工事																																										
1. 一般事項	◎受注者は、漏電による事故を防止するため、高圧水洗を行う前に調査を行い、漏電が予想される箇所に、必要に応じて養生等を行わなければならない。	1. 一般事項	◎防火材料又は建築基準法に基づく指定又は認定を受けたものとする。 ◎塗料はホルマリン不検出のもの及び有機溶剤の含有量が少ないものとする。 ◎ユリア樹脂等(ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤)を用いた塗料のホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆☆の塗料を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。	1. アスベスト含有建材の処理工事 1. 一般事項	◎関係法令、都道府県の条例等遵守すること。 ◎石綿ばく露防止対策等の実施内容を改標仕9.1.2(6)により見やすい場所に掲示すること。 ◎アスベスト粉塵濃度測定を(行う・行わない)。 ・濃度測定は「JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法-第1部:光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。 ・測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。 ・報告書を(3)部作成し監督員に提出すること。 ・測定場所及び箇所は図示による。測定時期()																																									
2. 外壁改修の施工数量及び調査方法	◎当工事の積算計上数量は、1階部分の調査数量を調査し、全体数量との面積比率により算定した数量の70%を計上している。 ◎施工数量は、次の調査により監督員が承諾し確定した数量に基づき設計変更を行う。(設計変更単価は、県単価で行う) ◎外部足場設置後、施工数量調査を行う。 ◎調査に先立ち、調査内容及び方法等の計画書を作成し監督員の承諾を得ること。また、調査方法等で専門知識が必要な場合は、各工法・材料の専門技術者(製造所等)に依頼すること。	2. 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">種別</th> <th rowspan="2">下地調整</th> <th colspan="2">さび止め塗料</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>屋外</th> <th>屋内</th> <th>屋外</th> <th>屋内</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td>B種</td> <td></td> <td>R B種</td> <td>A種 JIS5674</td> <td></td> <td>電気配管・盤 水道・ガス・鋼製建具 ベランダ隔板の枠</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種別</th> <th>下地調整</th> <th>上塗りの等級</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>V P管</td> <td>メーカー仕様</td> <td>メーカー仕様</td> <td>3級</td> <td>縦樋、排水管</td> </tr> <tr> <td>その他ボード面等</td> <td>メーカー仕様</td> <td>R B種</td> <td>3級</td> <td>ベランダ隔壁</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種別</th> <th>下地調整</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート面</td> <td>B種</td> <td>R B種</td> <td>階段室壁</td> </tr> </tbody> </table>	区分	種別		下地調整	さび止め塗料		備考	屋外	屋内	屋外	屋内	鉄鋼面	B種		R B種	A種 JIS5674		電気配管・盤 水道・ガス・鋼製建具 ベランダ隔板の枠	区分	種別	下地調整	上塗りの等級	備考	V P管	メーカー仕様	メーカー仕様	3級	縦樋、排水管	その他ボード面等	メーカー仕様	R B種	3級	ベランダ隔壁	区分	種別	下地調整	備考	コンクリート面	B種	R B種	階段室壁	2. アスベスト含有成形板の除去	◎工法 (1)除去は、アスベストを含まない内装材及び外部建具の撤去にさきが行うこと。 (2)除去は、破壊または破断を伴わない方法で行うものとし、原型のまま「手ばらし」とする。 建築物外部の成形板を除去する場合も同様とする。 なお、やむを得ず切断、破砕等をしなければならない場合は、監督員と協議のうえ、常時湿潤化した状態で作業を行う。 ただし、アスベストを含有するけい酸カルシウム板第一種は、養生シート等で作業場所の隔離(負担不要)を行う。 (4)建物から取り外した廃材を湿潤化のうえ、原型のまま保管・運搬できるよう十分な大きさのフレキシブルコンテナバッグや車両を用意すること。
区分	種別		下地調整		さび止め塗料			備考																																						
	屋外	屋内		屋外	屋内																																									
鉄鋼面	B種		R B種	A種 JIS5674		電気配管・盤 水道・ガス・鋼製建具 ベランダ隔板の枠																																								
区分	種別	下地調整	上塗りの等級	備考																																										
V P管	メーカー仕様	メーカー仕様	3級	縦樋、排水管																																										
その他ボード面等	メーカー仕様	R B種	3級	ベランダ隔壁																																										
区分	種別	下地調整	備考																																											
コンクリート面	B種	R B種	階段室壁																																											
3. 外壁改修工法の種類及び材料	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>ひび割れ部</th> <th>欠損部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>樹脂注入工法</td> <td>◎ 0.2mm~1.0mm 工法:自動式低圧球*樹脂注入 注入量: 50 cc用/4~5本/m 注入間隔: 200~300mm エポキシ樹脂: 製造所の仕様</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Uカットシール材充填工法</td> <td>材料: シーリング材:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>充てん工法</td> <td></td> <td>劣化部分の修繕</td> </tr> </tbody> </table> ◎エポキシ樹脂及びポリマーセメントモルタルの製造所: 評価名簿による。	工法	ひび割れ部	欠損部	樹脂注入工法	◎ 0.2mm~1.0mm 工法:自動式低圧球*樹脂注入 注入量: 50 cc用/4~5本/m 注入間隔: 200~300mm エポキシ樹脂: 製造所の仕様		Uカットシール材充填工法	材料: シーリング材:		充てん工法		劣化部分の修繕	3. 耐水性塗料塗り(OP)	◎工事に先立ち、改修部分の隠蔽部の調査を行い、設計図書と照合し、支障があった場合は、速やかに監督員に報告し指示を受けること。 ◎各部の撤去により、下地及び構造躯体にひび割れ及び欠陥部が発見された場合は、速やかに監督員に報告し指示を受けること。	◎除去箇所一覧表 <table border="1"> <thead> <tr> <th>階数</th> <th>室名</th> <th>箇所</th> <th>建材種別</th> <th>面積</th> <th>調査方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全階</td> <td>ベランダ隔板</td> <td>図添1</td> <td>石綿芯シート板壁</td> <td>5.0</td> <td>43.2㎡</td> </tr> </tbody> </table> ◎撤去が完了したときは、アスベスト等に関する知識を有するもの等が撤去を確認したことを確認し、監督員に報告すること。	階数	室名	箇所	建材種別	面積	調査方法	全階	ベランダ隔板	図添1	石綿芯シート板壁	5.0	43.2㎡																		
工法	ひび割れ部	欠損部																																												
樹脂注入工法	◎ 0.2mm~1.0mm 工法:自動式低圧球*樹脂注入 注入量: 50 cc用/4~5本/m 注入間隔: 200~300mm エポキシ樹脂: 製造所の仕様																																													
Uカットシール材充填工法	材料: シーリング材:																																													
充てん工法		劣化部分の修繕																																												
階数	室名	箇所	建材種別	面積	調査方法																																									
全階	ベランダ隔板	図添1	石綿芯シート板壁	5.0	43.2㎡																																									
4. 仕上塗材仕上げ外壁改修工事	◎仕上げの模様、色及びつやは、見本帳又は見本塗り板を監督員に提出して、承諾をうけること。 ◎下地処理(下地のひび割れ部の補修)は、2.外壁改修工法の種類と材料による。	4. 合成樹脂エマルジョンペイント塗料(EP)	◎工事に先立ち、改修部分の隠蔽部の調査を行い、設計図書と照合し、支障があった場合は、速やかに監督員に報告し指示を受けること。 ◎詳細は共通詳細図による。	◎施工計画 (1) 工事着手前に施工計画書(関係法令の作業計画内容を含む)を監督員に提出し、承諾を受けること。 (2) アスベスト除去工事に係る官公署他への手続きを遅延なく行うこと。	◎アスベスト含有吹付け材の除去を直接行う専門工事業者については、工事に相応した技術を有することを証明する資料を監督員に提出する。																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>既存塗膜の除去及び下地調整の工法</th> <th>下地仕上げ</th> <th>下地調整</th> <th>仕上形状</th> <th>工法</th> <th>防火認定</th> <th>上塗材</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薄付け仕上塗材 JIS A 6909</td> <td>サンダー工法 水洗い・清掃</td> <td>コンクリート 打放し</td> <td>C-1</td> <td>砂壁状</td> <td>吹き付け</td> <td>有</td> <td>つや無</td> <td>軒天 階段室天井</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>モルタル 剛毛引き</td> <td>C-1</td> <td>砂壁状</td> <td>吹き付け</td> <td>有</td> <td>つや無</td> <td>階段室壁</td> </tr> <tr> <td>複層仕上塗材 JIS A 6909</td> <td>サンダー工法 水洗い・清掃</td> <td>コンクリート 打放し</td> <td>C-1</td> <td>凹凸模様</td> <td>吹き付け</td> <td>有</td> <td>つや有</td> <td>外壁</td> </tr> </tbody> </table>	種類	既存塗膜の除去及び下地調整の工法	下地仕上げ	下地調整	仕上形状	工法	防火認定	上塗材	施工箇所	薄付け仕上塗材 JIS A 6909	サンダー工法 水洗い・清掃	コンクリート 打放し	C-1	砂壁状	吹き付け	有	つや無	軒天 階段室天井			モルタル 剛毛引き	C-1	砂壁状	吹き付け	有	つや無	階段室壁	複層仕上塗材 JIS A 6909	サンダー工法 水洗い・清掃	コンクリート 打放し	C-1	凹凸模様	吹き付け	有	つや有	外壁	7章 ユニット・その他工事	◎材種(アルミ製)、形状(図示)、寸法(図示)	◎工法記録等 (1) 施工記録報告書を及び特定粉じん排出等作業完了報告書作成し、監督員に提出すること。 (2) 作業計画による作業の記録は、3年間保存すること。						
種類	既存塗膜の除去及び下地調整の工法	下地仕上げ	下地調整	仕上形状	工法	防火認定	上塗材	施工箇所																																						
薄付け仕上塗材 JIS A 6909	サンダー工法 水洗い・清掃	コンクリート 打放し	C-1	砂壁状	吹き付け	有	つや無	軒天 階段室天井																																						
		モルタル 剛毛引き	C-1	砂壁状	吹き付け	有	つや無	階段室壁																																						
複層仕上塗材 JIS A 6909	サンダー工法 水洗い・清掃	コンクリート 打放し	C-1	凹凸模様	吹き付け	有	つや有	外壁																																						
		1. 一般事項	◎材種(アルミ製)、形状(図示)、寸法(図示)	2. 表示	◎材種(ケイカル板6.0mm)、形状(図示)、寸法(図示)																																									
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>材質</th> <th>寸法</th> <th>厚さ</th> <th>取付高さ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>隔板ステッカー</td> <td>アルミ箔</td> <td>150×400</td> <td>0.24mm</td> <td>図示</td> <td>ベランダ</td> </tr> <tr> <td>海拔表示盤</td> <td>基板:アルミ HIP高輝度反射シート張り</td> <td>1500×200</td> <td>2.0mm</td> <td>図示</td> <td>外壁面</td> </tr> </tbody> </table>	区分	材質	寸法	厚さ	取付高さ	備考	隔板ステッカー	アルミ箔	150×400	0.24mm	図示	ベランダ	海拔表示盤	基板:アルミ HIP高輝度反射シート張り	1500×200	2.0mm	図示	外壁面	3. 物干し金物	◎材種(アルミ製)、形状(図示)、寸法(図示)																							
区分	材質	寸法	厚さ	取付高さ	備考																																									
隔板ステッカー	アルミ箔	150×400	0.24mm	図示	ベランダ																																									
海拔表示盤	基板:アルミ HIP高輝度反射シート張り	1500×200	2.0mm	図示	外壁面																																									
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>階数</th> <th>部材</th> <th>箇所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全階</td> <td>窓手摺り</td> <td>20箇所</td> <td>北面</td> </tr> <tr> <td>2階~3階</td> <td>壁、天吊りエアコン室外機</td> <td>3箇所</td> <td>ベランダ、北面</td> </tr> <tr> <td>1階~3階</td> <td>パラボラアンテナ</td> <td>4箇所</td> <td>ベランダ</td> </tr> </tbody> </table>	階数	部材	箇所	備考	全階	窓手摺り	20箇所	北面	2階~3階	壁、天吊りエアコン室外機	3箇所	ベランダ、北面	1階~3階	パラボラアンテナ	4箇所	ベランダ	4. 隔壁																										
階数	部材	箇所	備考																																											
全階	窓手摺り	20箇所	北面																																											
2階~3階	壁、天吊りエアコン室外機	3箇所	ベランダ、北面																																											
1階~3階	パラボラアンテナ	4箇所	ベランダ																																											
				5. 取り外し再取り付け																																										

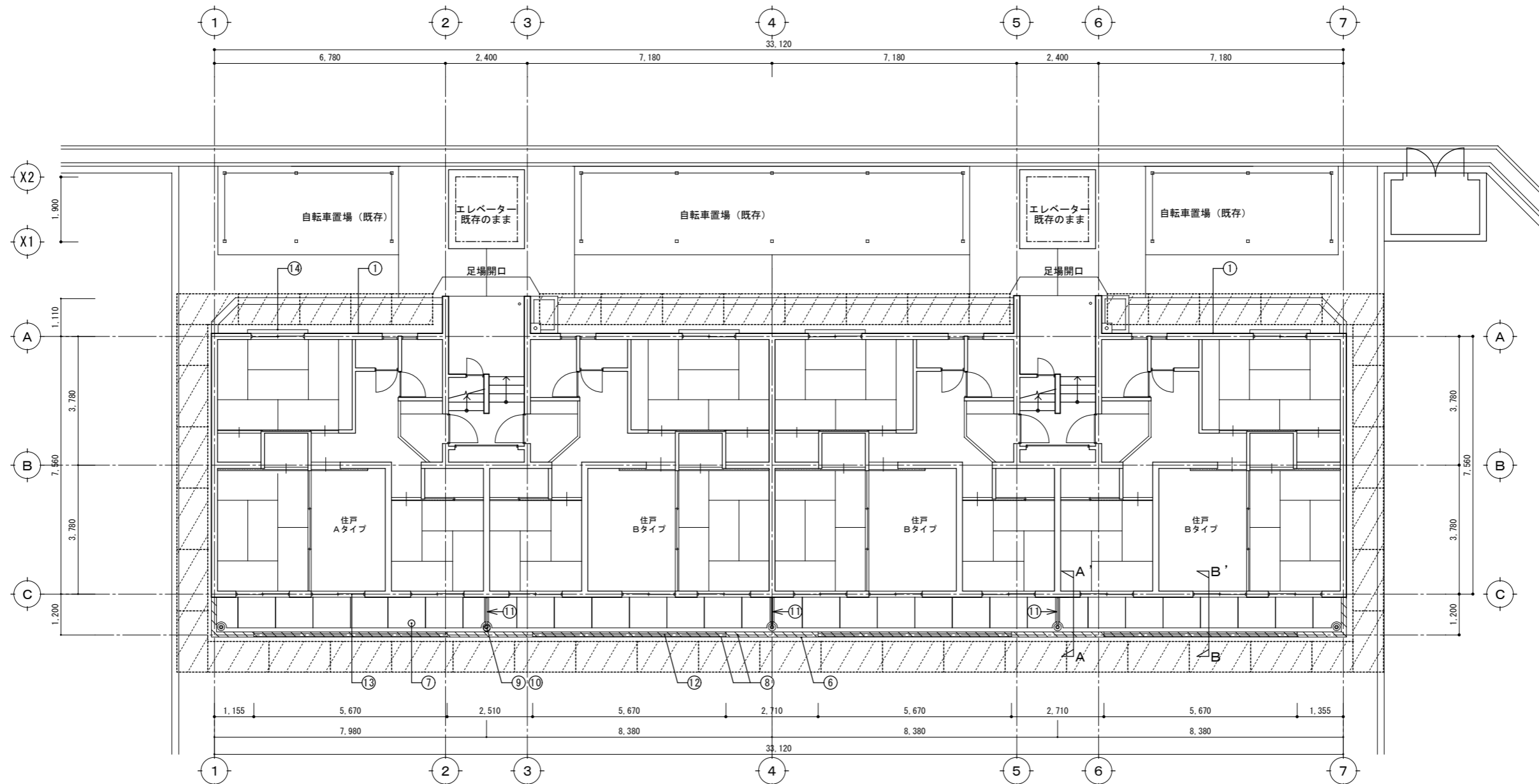
付近見取図 SC:Non



全体配置図 SC:1/400

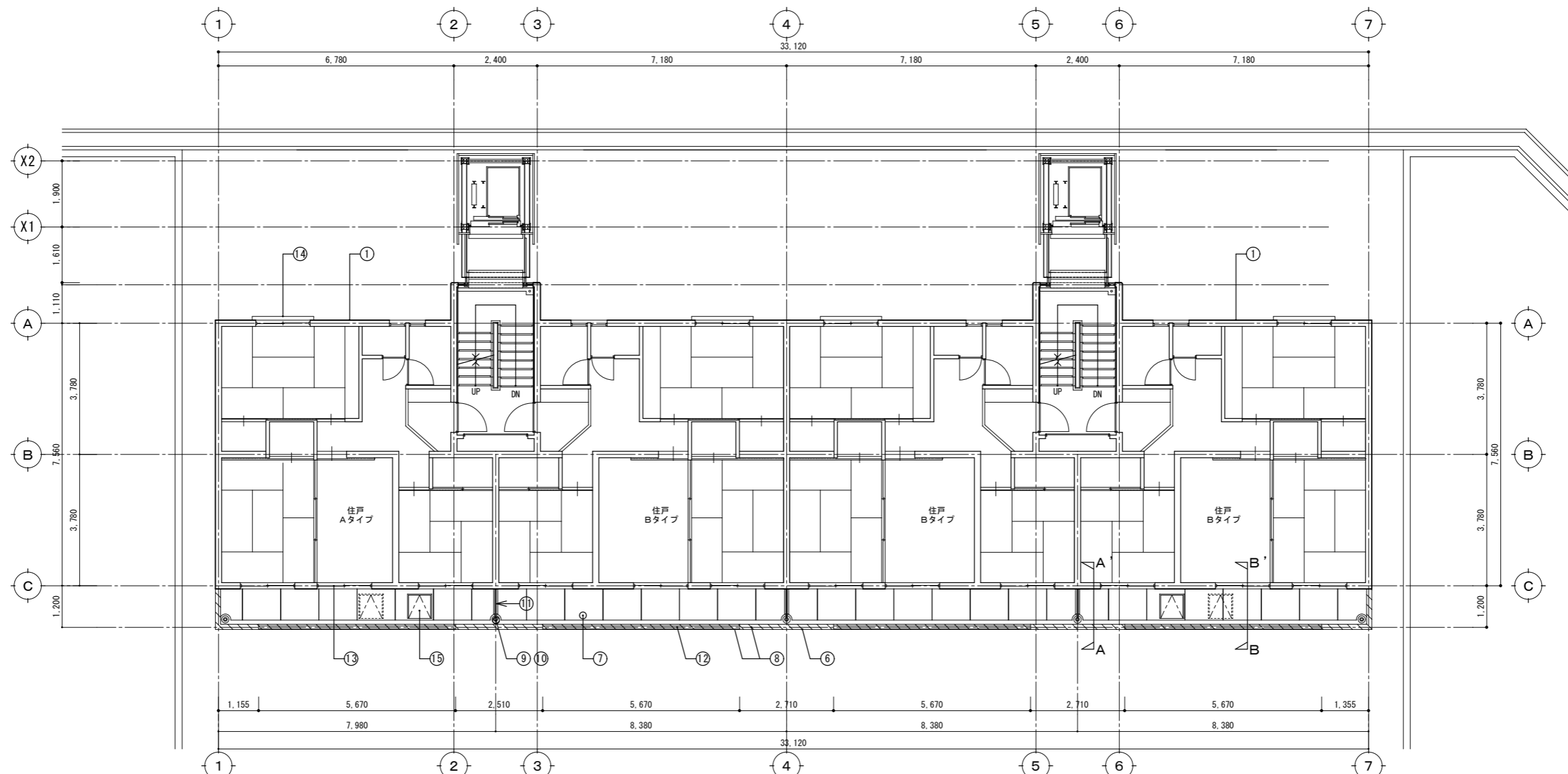


外部仕上表			
No	部位	改修前	改修後
①	外 壁 (東西南北)	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存外壁塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、防水型複層塗材E吹付 外壁のひび割れ等の数量、補修方法は外壁調査図(B-010, B-011)を参照
⑥	バルコニー壁 (両面)	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存外壁塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、防水型複層塗材E吹付 外壁のひび割れ等の数量、補修方法は外壁調査図(B-010, B-011)を参照
⑦	バルコニー床	下地：鉄筋コンクリート(7)120コテ押え 仕上：防水モルタル(7)30コテ押え 平場・立上り：現況のまま	水洗い清掃
⑧	バルコニー笠木	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2)
⑨	バルコニー用 ルーフトレイン	モルタル防水用 VP75φ用 ドレイン取り合い既成シール	現況のまま 現況のまま
⑩	バルコニー縦樋	VP75φ VP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、DP塗り
⑪	バルコニー隔板	石綿セメント板(7)5 VP塗り 撤去 スチール枠材：OP塗 現況のまま 両面避難ステッカー 150×400 撤去	ケイカル板(7)6.0 DP塗り 新設 スチール枠材：下地調整の上、SOP塗り 両面避難ステッカー 150×400 新設
⑫	バルコニー手摺	BL型(7)製) h' 鉄床支持型 W=1800 H=1150(連立型)	現況のまま
⑬	外部開口部廻り	面台：防水モルタルコテ磨き サッシ取り合い四方：コーキング詰め	面台：水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2) サッシ取り合い四方：MS-2(10×10)再充填
⑭	窓手摺	BL型(7)製) W=1760 H=900	取り外し再取り付け

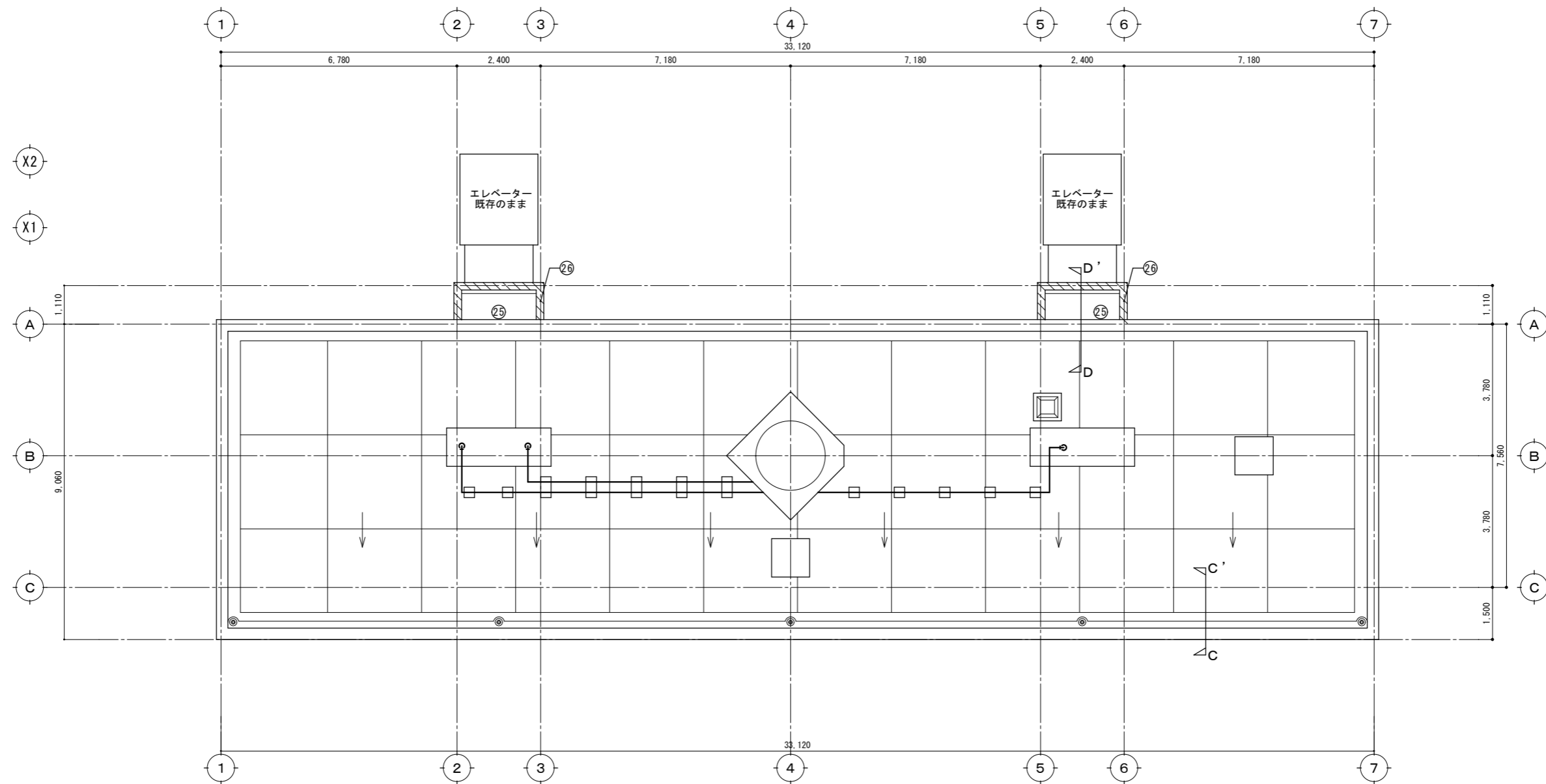


◎外部足場(種類：枠組本足場、仕様：2枚布、D= 90cm、シート仕様：養生シート(防火1類)) 枠組本足場(手すり先行方式) W=900 メッシュ養生シート(防災I類)

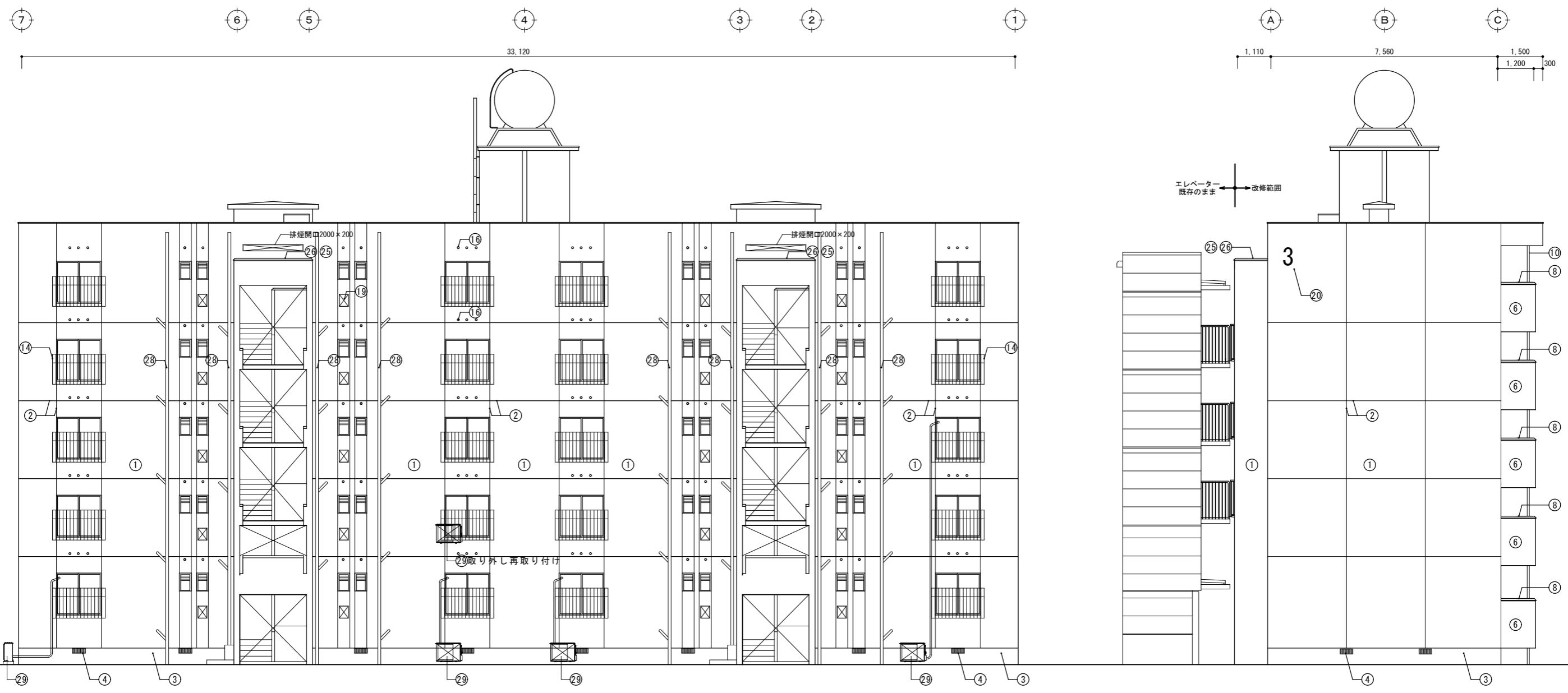
外部仕上表			
No	部位	改修前	改修後
①	外 壁 (東西南北)	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存外壁塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、防水型複層塗材E吹付 外壁のひび割れ等の数量、補修方法は外壁調査図(B-010, B-011)を参照
⑥	バルコニー壁 (両面)	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存外壁塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、防水型複層塗材E吹付 外壁のひび割れ等の数量、補修方法は外壁調査図(B-010, B-011)を参照
⑦	バルコニー床	下地：鉄筋コンクリート(7)120コテ押え 仕上：防水モルタル(7)30コテ押え 平場・立上り：現況のまま	水洗い清掃
⑧	バルコニー笠木	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2)
⑨	バルコニー用 ルーフトレイン	モルタル防水用 VP75φ用 ドレイン取り合い既存シール	現況のまま 現況のまま
⑩	バルコニー縦樋	VP75φ VP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、DP塗り
⑪	バルコニー隔板	石綿セメント板(7)5 VP塗り 撤去 スチール枠材：OP塗 現況のまま 両面避難ステッカー 150×400 撤去	ケイカル板(7)6.0 DP塗り 新設 スチール枠材：下地調整の上、SOP塗り 両面避難ステッカー 150×400 新設
⑫	バルコニー手摺	BL型(7&8製) 片 縁床支持型 W=1800 H=1150(連立型)	現況のまま
⑬	外部開口部廻り	面台：防水モルタルコテ磨き サッシ取り合い四方：コーキング詰め	面台：水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2) サッシ取り合い四方：MS-2(10×10)再充填
⑭	窓手摺	BL型(7&8製) W=1760 H=900	取り外し再取り付け
⑮	避難はしご	ステン製700×700	現況のまま



外部仕上表			
No	部位	改修前	改修後
㉔	階段室屋上	下地：鉄筋コンクリート(7)120コテ押え 仕上：防水モルタル(7)30コテ押え 平場・立上り：現況のまま	現況のまま
㉕	階段室屋上笠木	防水モルタルコテ押え 現況のまま	水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2)



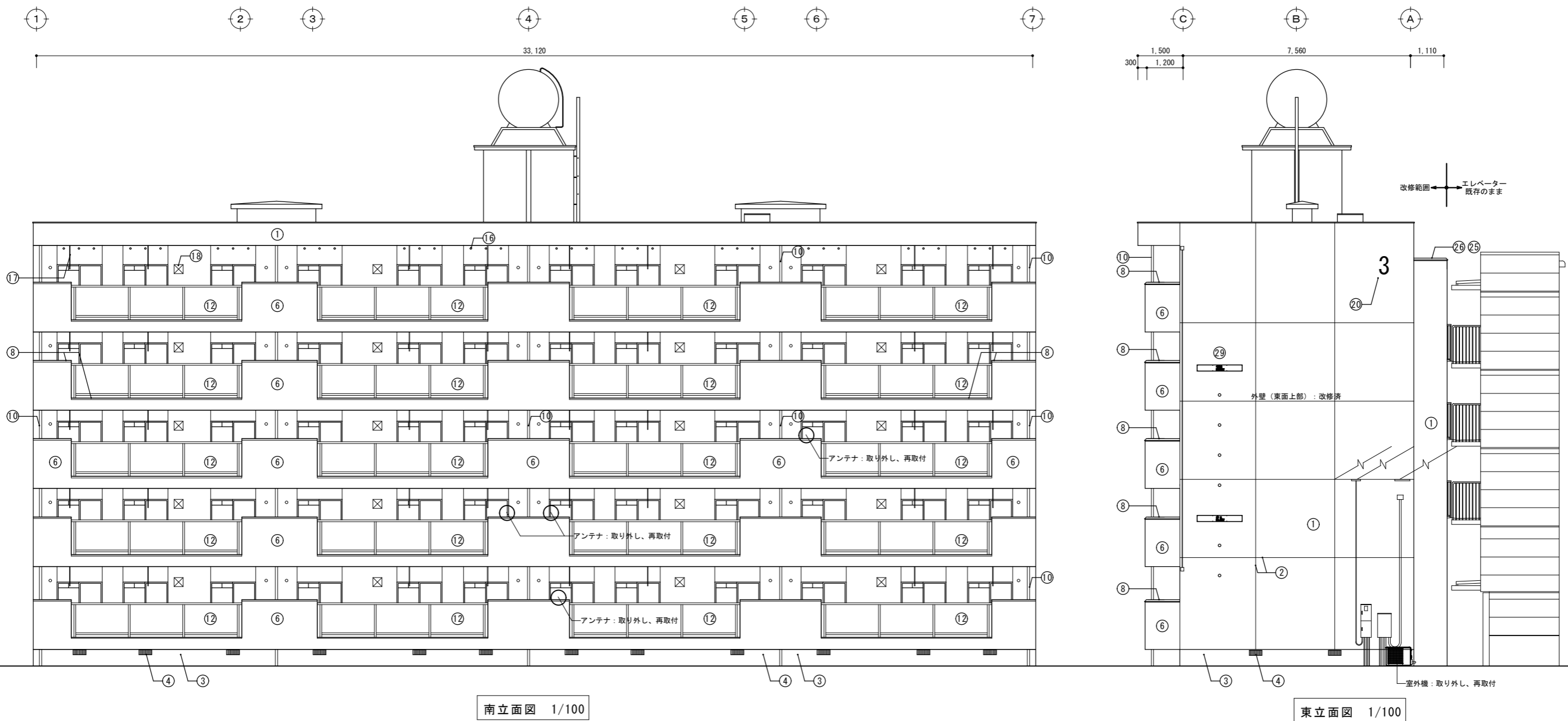
外部仕上表			
No	部位	改修前	改修後
①	外壁	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存外壁塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、防水型複層塗材E吹付 外壁のひび割れ等の数量、補修方法は外壁調査図(B-010、B-011)を参照
②	外壁目地	コーキング詰め(ポリサルファイド系) 撤去	P-U-2 (25×10) 再充填
③	巾木	コンクリート打ち放し	水洗い清掃
④	床下換気口	鋼鉄製 170×420	現況のまま
⑤	軒天	コンクリート打ち放しの上、シリカ系リシン吹付 既存塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、外装薄塗材E吹付
⑥	バルコニー壁	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存外壁塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、防水型複層塗材E吹付 外壁のひび割れ等の数量、補修方法は外壁調査図(B-010、B-011)を参照
⑦	バルコニー床	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃
⑧	バルコニー笠木	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2)
⑨	バルコニー用 ルーフトレイン	モルタル防水用 VP75φ用 ドレイン取り合い既存シール	現況のまま
⑩	バルコニー壁樋	VP75φ VP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、DP塗り
⑪	バルコニー隔板	石綿セメント板(7)5 VP塗り 撤去 スチール枠材: OP塗り 両面避難ステッカー 150×400 撤去	ケイカル板(7)6.0 DP塗り 新設 スチール枠材: 下地調整の上、SOP塗り 両面避難ステッカー 150×400 新設
⑫	バルコニー手摺	BL型(7)製) H床支持型 W=1800 H=1150(連立型)	現況のまま
⑬	外部開口部廻り	面台: 防水モルタルコテ磨き サッシ取り合い四方: 既存シール撤去	面台: 水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2) サッシ取り合い四方: MS-2 (10×10)再充填
⑭	窓手摺	BL型(7)製) W=1760 H=900	取り外し再取り付け
⑮	避難はしご	スチール製700×700	現況のまま
⑯	気抜	塩ビ製65φ L型 網付 水返し付 VP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、DP塗り
⑰	物干し金物	アルミ製(固定式)取り外し 撤去	アルミ製(固定式) 新設※既存インサート再利用
⑱	換気扇	既存開口200×200	現況のまま
⑲	バランス釜	既存開口235×342	現況のまま
⑳	棟番号	プラスチック製 H=650 両妻	現況のまま
㉑	階段室床・幅木	防水モルタルコテ押え	現況のまま
㉒	階段室腰壁	モルタルコテ磨き AEP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、EP塗り
㉓	階段室壁	モルタル刷毛引きの上、スキン吹付 既存塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、外装薄塗材E吹付
㉔	階段室天井	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、外装薄塗材E吹付
㉕	階段室屋上	防水モルタルコテ押え	現況のまま
㉖	階段室屋上笠木	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2)
㉗	階段室樋	VP50φ VP塗り	現況のまま
㉘	排水管	排水管: VP塗り 受け・掴み金物: OP塗り	排水管: 水洗い清掃、下地調整の上、DP塗り 受け・掴み金物: OP塗り
㉙	室外機	現況のまま	現況のまま 北面壁吊り、南面天吊りは取り外し再取り付けとする
㉚	海拔表示盤	-	新設



北立面図 1/100

西立面図 1/100

外部仕上表			
No	部位	改修前	改修後
①	外壁	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存外壁塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、防水型複層塗材E吹付 外壁のひび割れ等の数量、補修方法は外壁調査図(B-010、B-011)を参照
②	外壁目地	コーキング詰め(ポリサルファイド系) 撤去	P-U-2 (25×10) 再充填
③	巾木	コンクリート打ち放し	水洗い清掃
④	床下換気口	錆鉄製 170×420	現況のまま
⑤	軒天	コンクリート打ち放しの上、シリカ系リシン吹付 既存塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、外装薄塗材E吹付
⑥	バルコニー壁	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存外壁塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、防水型複層塗材E吹付 外壁のひび割れ等の数量、補修方法は外壁調査図(B-010、B-011)を参照
⑦	バルコニー床	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃
⑧	バルコニー笠木	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2)
⑨	バルコニー用ルーフトレイン	モルタル防水用 VP75φ用 ドレイン取り合い既存シール	現況のまま
⑩	バルコニー壁樋	VP75φ VP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、DP塗り
⑪	バルコニー隔板	石綿セメント板(7)5 VP塗り 撤去 スチール枠材: OP塗り 両面避難ステッカー 150×400 撤去	ケイカル板(7)6.0 DP塗り 新設 スチール枠材: 下地調整の上、SOP塗り 両面避難ステッカー 150×400 新設
⑫	バルコニー手摺	BL型(7)製) H床支持型 W=1800 H=1150(連立型)	現況のまま
⑬	外部開口部廻り	面台: 防水モルタルコテ磨き サッシ取り合い四方: 既存シール撤去	面台: 水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2) サッシ取り合い四方: MS-2 (10×10)再充填
⑭	窓手摺	BL型(7)製) W=1760 H=900	取り外し再取り付け
⑮	避難はしご	スチール製700×700	現況のまま
⑯	気抜	塩ビ製65φ L型 網付 水返し付 VP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、DP塗り
⑰	物干し金物	アルミ製(固定式)取り外し 撤去	アルミ製(固定式) 新設※既存インサート再利用
⑱	換気扇	既存開口200×200	現況のまま
⑲	バランス釜	既存開口235×342	現況のまま
⑳	棟番号	プラスチック製 H=650 両妻	現況のまま
㉑	階段室床・幅木	防水モルタルコテ押え	現況のまま
㉒	階段室腰壁	モルタルコテ磨き AEP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、EP塗り
㉓	階段室壁	モルタル刷毛引きの上、スキン吹付 既存塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、外装薄塗材E吹付
㉔	階段室天井	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、外装薄塗材E吹付
㉕	階段室屋上	防水モルタルコテ押え	現況のまま
㉖	階段室屋上笠木	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2)
㉗	階段室樋	VP50φ VP塗り	現況のまま
㉘	排水管	排水管: VP塗り 受け・掴み金物: OP塗り	排水管: 水洗い清掃、下地調整の上、DP塗り 受け・掴み金物: OP塗り
㉙	室外機	現況のまま	現況のまま 北面壁吊り、南面天吊りは取り外し再取り付けとする
㉚	海拔表示盤	-	新設



南立面図 1/100

東立面図 1/100

凡例	
① →	クラック発生部 0.2~1.0mm以下 挙動無し
② →	爆裂及び欠損部
③	クラック過去補修跡

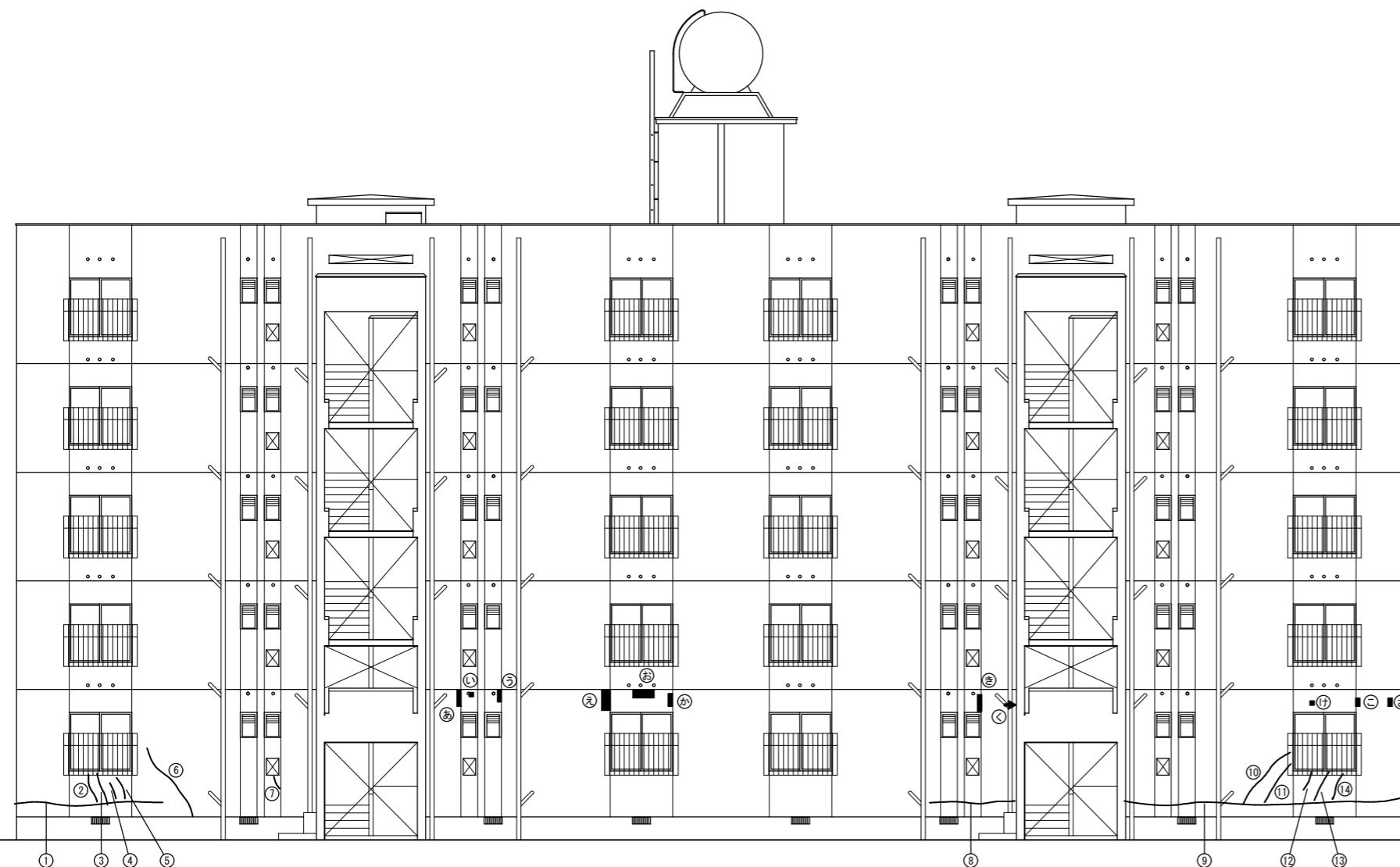
クラック補修方法	
④	0.2~1.0mm以下 樹脂注入工法
⑤	既存シーラ撤去し、シーラ材打ち直し
爆裂及び欠損部補修方法	
⑥	ポリマーセメント充填工法

クラック 数量調査表 ※0.2~1.0mm以下 挙動無し							
図面記載番号	長さ (m)	図面記載番号	長さ (m)	図面記載番号	長さ (m)	図面記載番号	長さ (m)
①	3.50	⑬	0.35	⑳	0.35	㉞	0.35
②	0.50	⑭	0.35	㉑	0.35	㉟	0.35
③	0.55	⑮	0.35	㉒	0.90		
④	0.30	⑯	0.35	㉓	0.90		
⑤	0.40	⑰	0.35	㉔	0.65		
⑥	1.50	⑱	0.35	㉕	0.35		
⑦	0.20	⑲	0.35	㉖	0.35		
⑧	2.00	㉀	0.35	㉗	0.35		
⑨	6.60	㉁	0.35	㉘	0.35		
⑩	0.90	㉂	0.35	㉙	0.90		
⑪	1.00	㉃	0.35	㉚	0.70		
⑫	0.50	㉄	0.35	㉛	0.35		
⑬	0.50	㉅	0.35	㉜	0.35		
⑭	0.50	㉆	0.35	㉝	0.35		
⑮	0.70	㉇	0.35	㉞	0.35		

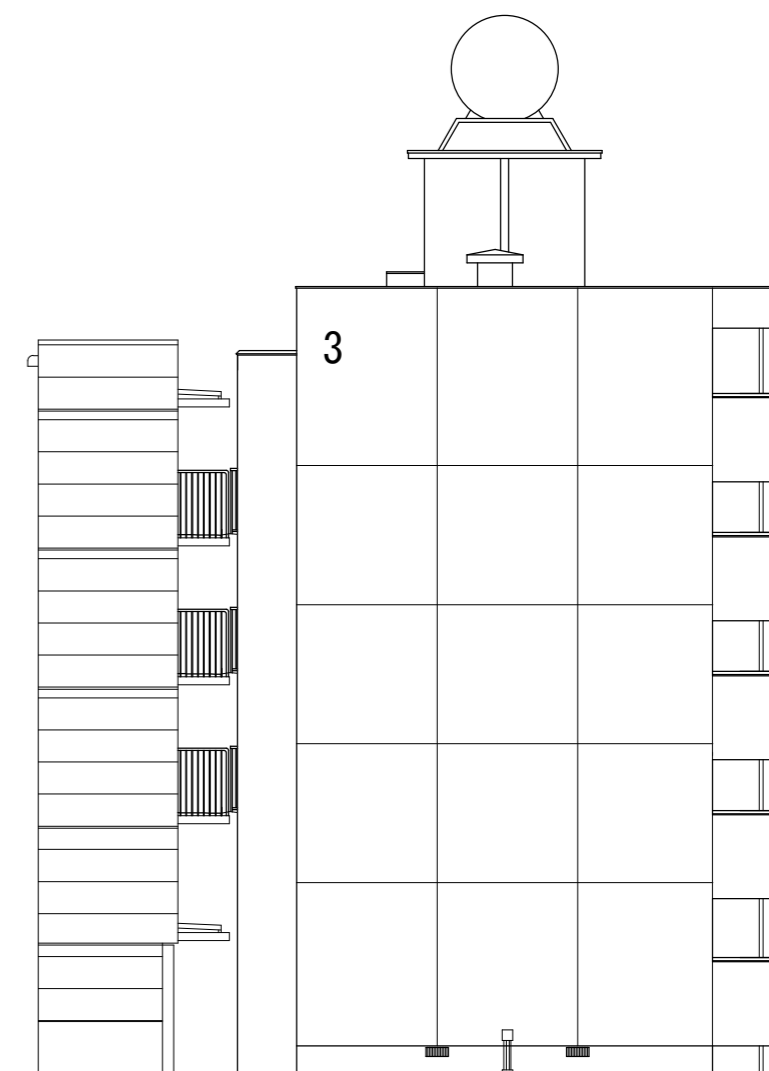
クラック 数量調査表 ※1.0mmを超える 挙動無し	
図面記載番号	長さ (m)
㉟	1.10
㊱	1.40

爆裂及び欠損部 数量調査表							
図面記載番号	巾 (m)	高さ (m)	面積 (㎡)	図面記載番号	巾 (m)	高さ (m)	面積 (㎡)
㊲	0.10	0.40	0.04	㊳	0.03	0.03	0.01
㊴	0.10	0.10	0.01	㊵	0.60	0.05	0.03
㊶	0.10	0.30	0.03	㊷	0.13	0.12	0.02
㊸	0.20	0.50	0.10				
㊹	0.50	0.20	0.10				
㊺	0.10	0.30	0.03				
㊻	0.10	0.40	0.04				
㊼	0.50	0.20	0.10				
㊽	0.10	0.20	0.02				
㊾	0.10	0.20	0.02				
㊿	0.10	0.20	0.02				
㋀	0.02	0.02	0.01				
㋁	0.06	0.08	0.01				
㋂	0.10	0.07	0.01				
㋃	0.03	0.03	0.01				

※施工前に数量調査を行うこと。
調査の結果、右記に示す補修以外の工法が必要になる場合は、公共建築改修工事標準仕様書4章3節及び4節の仕様に基づき適切に補修を行うこと。



北立面図 1/100



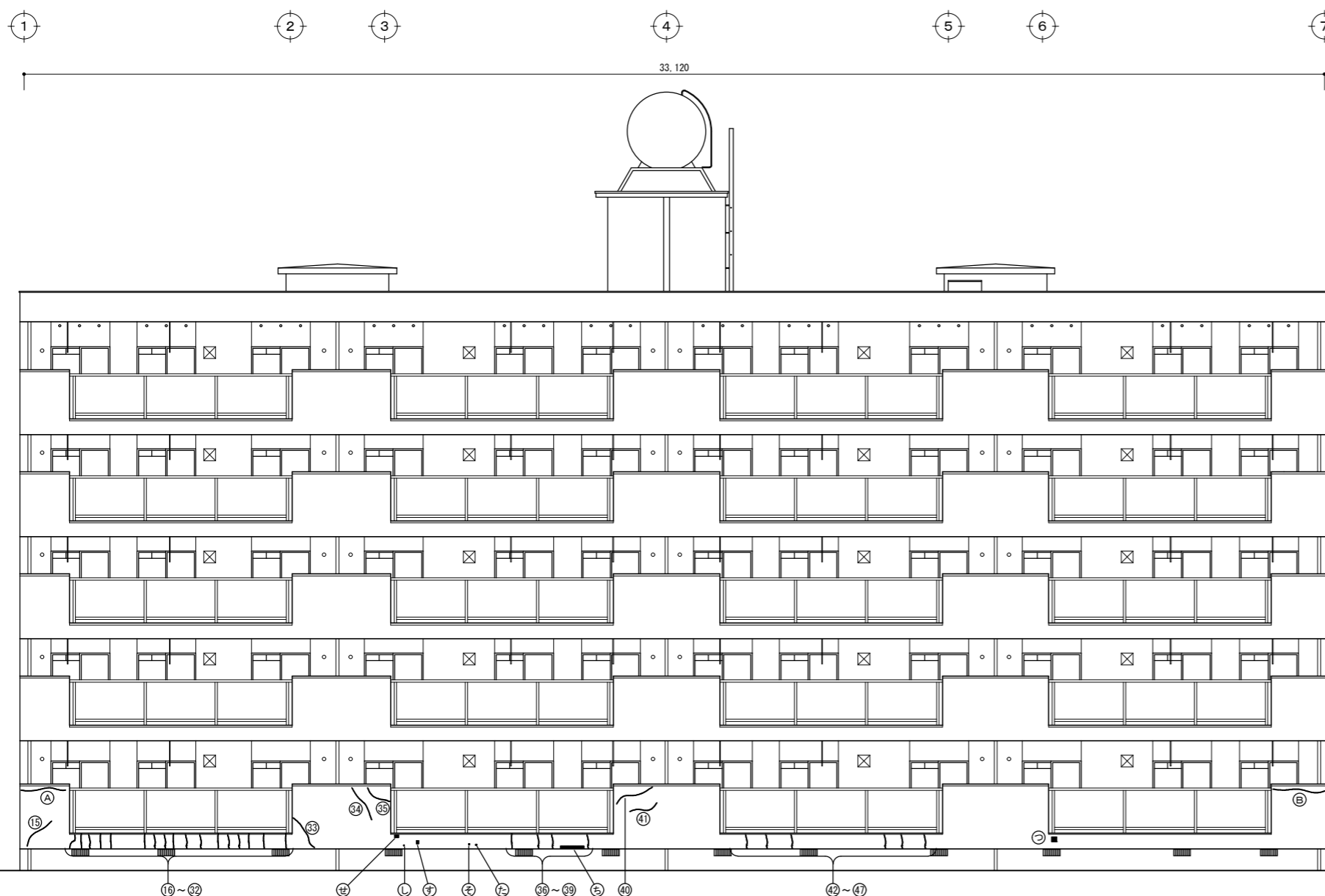
西立面図 1/100

凡 例	
㊦ →	クラック発生部 0.2~1.0mm以下 挙動無し
㊧ →	爆裂及び欠損部
㊨	クラック過去補修跡

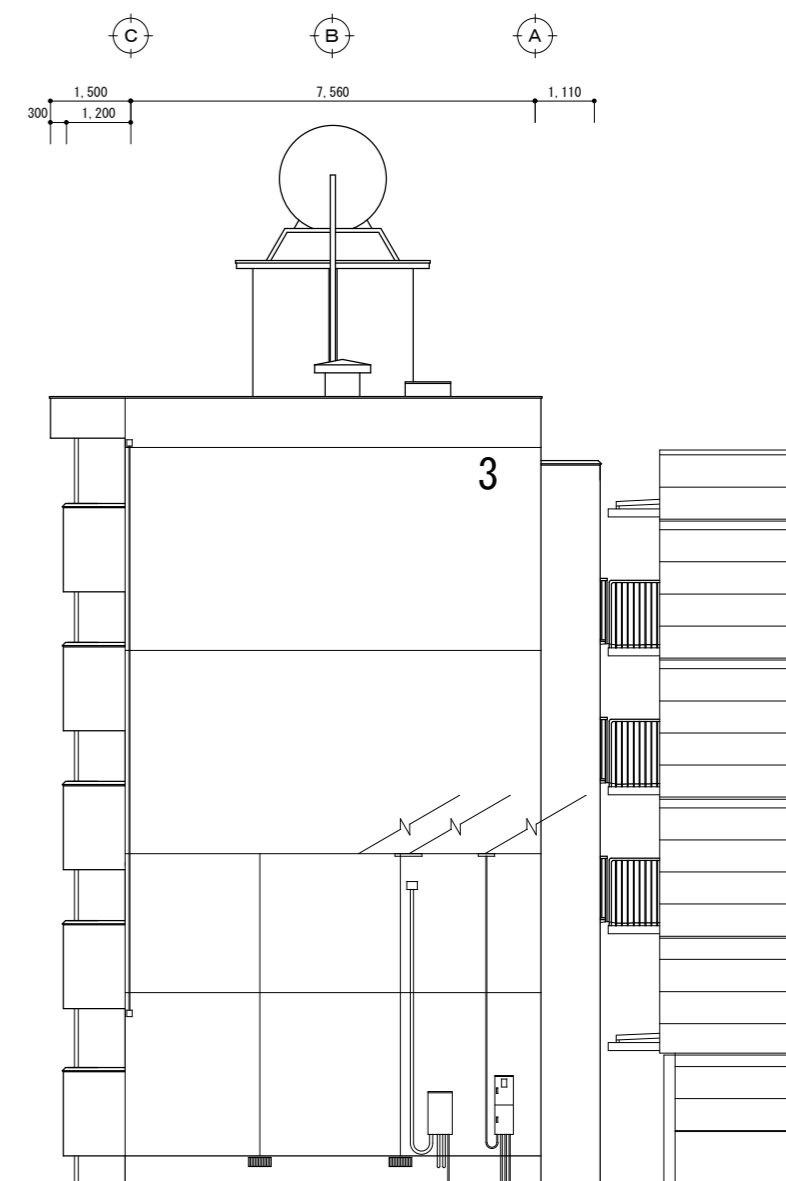
クラック補修方法	
㊦	0.2~1.0mm以下 樹脂注入工法
㊩	既存シール撤去し、シール材打ち直し
爆裂及び欠損部補修方法	
㊧	ポリアセチレン充填工法

※施工前に数量調査を行うこと。

調査の結果、右記に示す補修以外の工法が必要になる場合は、
公共建築改修工事標準仕様書4章3節及び4節の仕様に基づき
適切に補修を行うこと。

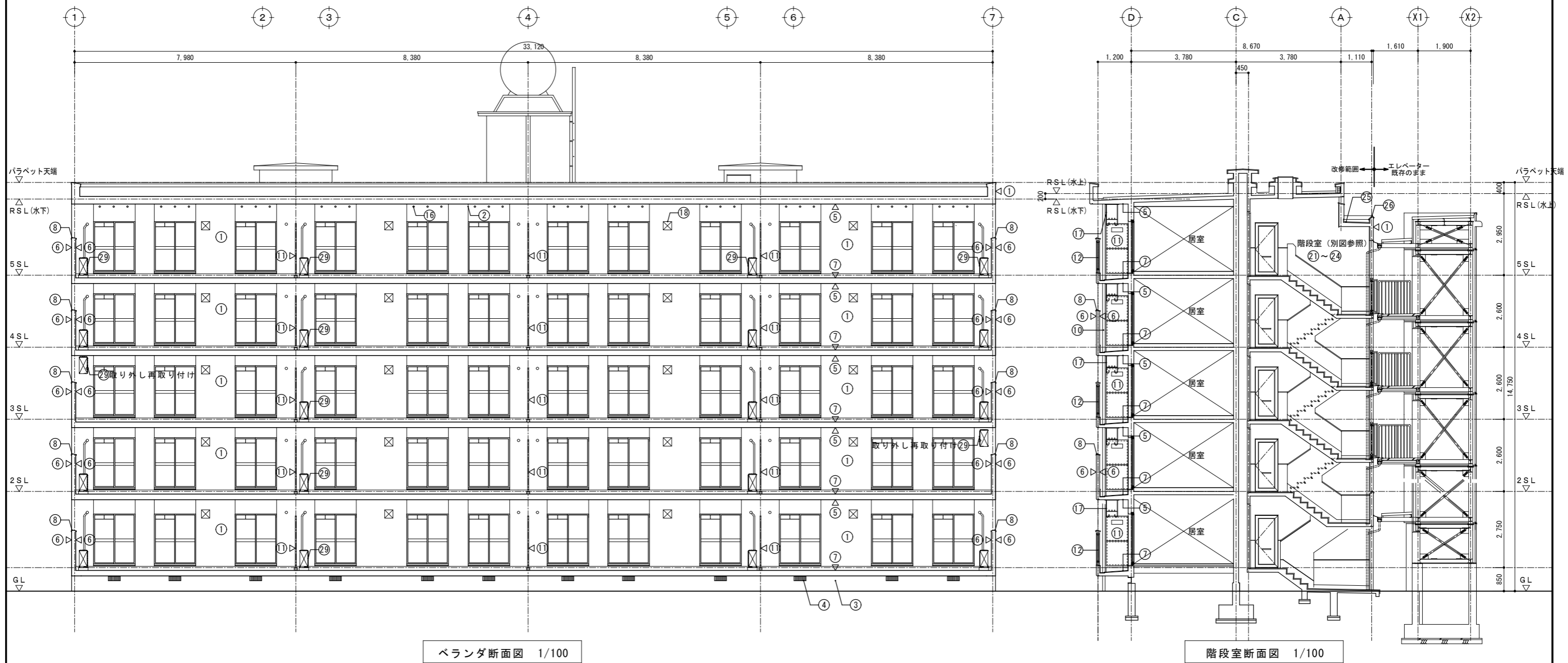


南立面図 1/100



東立面図 1/100

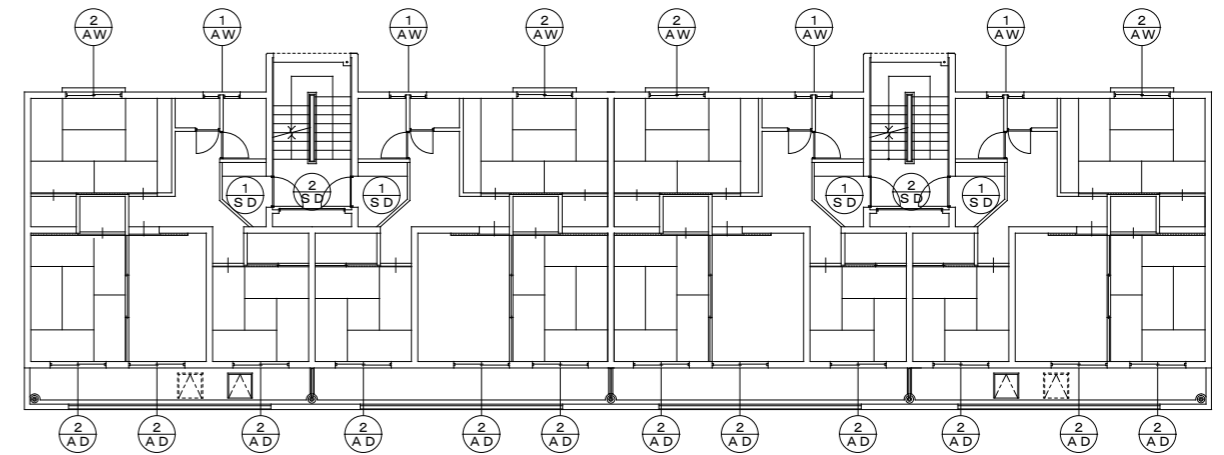
外部仕上表			
No	部位	改修前	改修後
①	外壁	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存外壁塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、防水型複層塗材E吹付 外壁のひび割れ等の数量、補修方法は外壁調査図(B-010、B-011)を参照
②	外壁目地	コーキング詰め(ポリサルファイド系) 撤去	P-U-2 (25×10) 再充填
③	巾木	コンクリート打ち放し	水洗い清掃
④	床下換気口	鋼鉄製 170×420	現況のまま
⑤	軒天	コンクリート打ち放しの上、シリカ系リシン吹付 既存塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、外装薄塗材E吹付
⑥	バルコニー壁	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存外壁塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、防水型複層塗材E吹付 外壁のひび割れ等の数量、補修方法は外壁調査図(B-010、B-011)を参照
⑦	バルコニー床	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃
⑧	バルコニー笠木	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2)
⑨	バルコニー用 ルーフトレイン	モルタル防水用 VP75φ用 ドレイン取り付け済み既存シール	現況のまま
⑩	バルコニー壁樋	VP75φ VP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、DP塗り
⑪	バルコニー隔板	石綿セメント板(7)5 VP塗り 撤去 スチール枠材: OP塗り 両面避難ステッカー 150×400 撤去	ケイカル板(7)6.0 DP塗り 新設 スチール枠材: 下地調整の上、SOP塗り 両面避難ステッカー 150×400 新設
⑫	バルコニー手摺	BL型(7)製 H床支持型 W=1800 H=1150(連立型)	現況のまま
⑬	外部開口部廻り	面台: 防水モルタルコテ磨き サッシ取り付け合い四方: 既存シール撤去	面台: 水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2) サッシ取り付け合い四方: MS-2 (10×10)再充填
⑭	窓手摺	BL型(7)製 W=1760 H=900	取り外し再取り付け
⑮	避難はしご	スチール製700×700	現況のまま
⑯	気抜	塩ビ製65φ L型 網付 水返し付 VP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、DP塗り
⑰	物干し金物	アルミ製(固定式)取り外し 撤去	アルミ製(固定式) 新設※既存インサート再利用
⑱	換気扇	既存開口200×200	現況のまま
⑲	バランス釜	既存開口235×342	現況のまま
⑳	棟番号	プラスチック製 H=650 両妻	現況のまま
㉑	階段室床・幅木	防水モルタルコテ押え	現況のまま
㉒	階段室腰壁	モルタルコテ磨き AEP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、EP塗り
㉓	階段室壁	モルタル刷毛引きの上、スキン吹付 既存塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、外装薄塗材E吹付
㉔	階段室天井	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、外装薄塗材E吹付
㉕	階段室屋上	防水モルタルコテ押え	現況のまま
㉖	階段室屋上笠木	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2)
㉗	階段室樋	VP50φ VP塗り	現況のまま
㉘	排水管	排水管: VP塗り 受け・掴み金物: OP塗り	排水管: 水洗い清掃、下地調整の上、DP塗り 受け・掴み金物: OP塗り
㉙	室外機	現況のまま	現況のまま 北面壁吊り、南面天吊りは取り外し再取り付けとする
㉚	海拔表示盤	-	新設



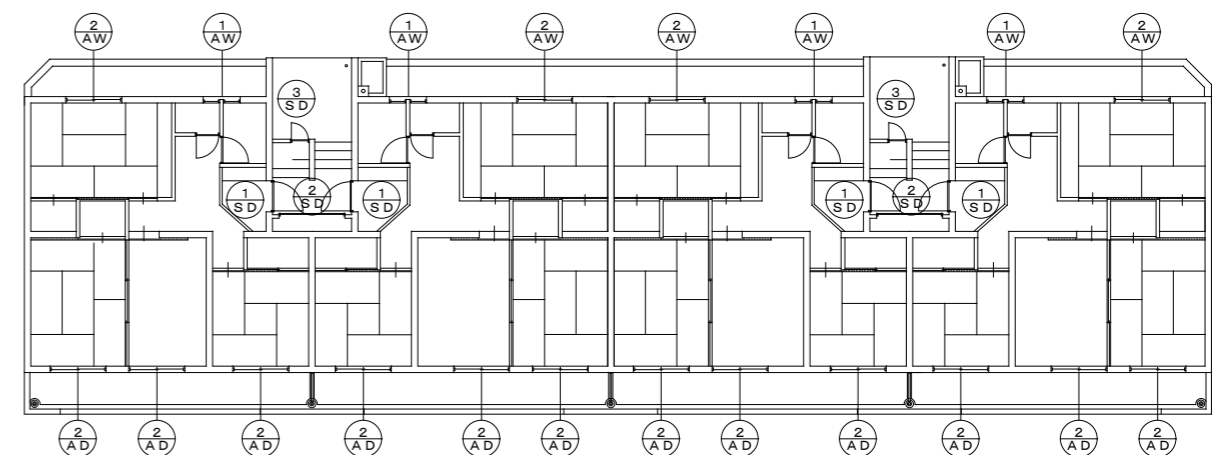
ベランダ断面図 1/100

階段室断面図 1/100

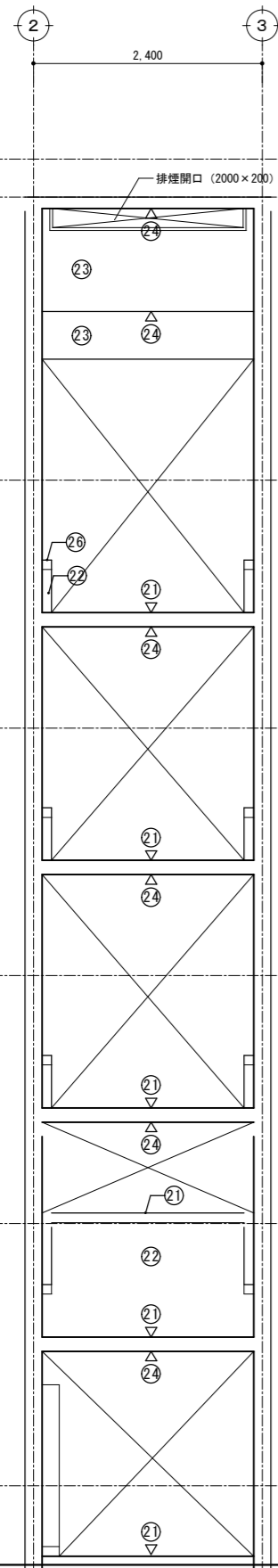
凡例	名称	① S/D	片面フラッシュ戸 片開キドア	② S/D	パイプシャフトドア	③ S/D	片開キスチールドア
姿	図						
使用箇所	玄関 (各戸)	P.S (各階)		階段室 (各階段室)			
数量	20	10		2			
見込	80	40		70			
材種							
硝子							
塗装	改修前: OP塗り 改修後: SOP塗り (見え掛かり部のみ)	改修前: OP塗り 改修後: SOP塗り (見え掛かり部のみ)		改修前: OP塗り 改修後: SOP塗り (見え掛かり部のみ)			
金物							
備考		ナンバープレートは養生のこと					
凡例	名称	① A/D	片開キ腰高アルミドア	② A/D	引違イアルミサッシドア	① A/W	内開シガラリ付アルミサッシ
姿	図						
使用箇所	浴室 (各戸)	南面各室 (6帖、4.5帖、台所兼食堂)		浴室、便所			
数量	20	60		20			
見込	60	60		60			
材種							
硝子		現況のまま					
塗装							
金物							
備考		サッシ-外壁取合シール: 既存撤去、MS-2 (10×10) 再充填		サッシ-外壁取合シール: 既存撤去、MS-2 (10×10) 再充填			
凡例	名称	② A/W	引違イアルミサッシ				
姿	図						
使用箇所	6帖 (イ)						
数量	20						
見込	60						
材種							
硝子							
塗装							
金物							
備考		サッシ-外壁取合シール: 既存撤去、MS-2 (10×10) 再充填					



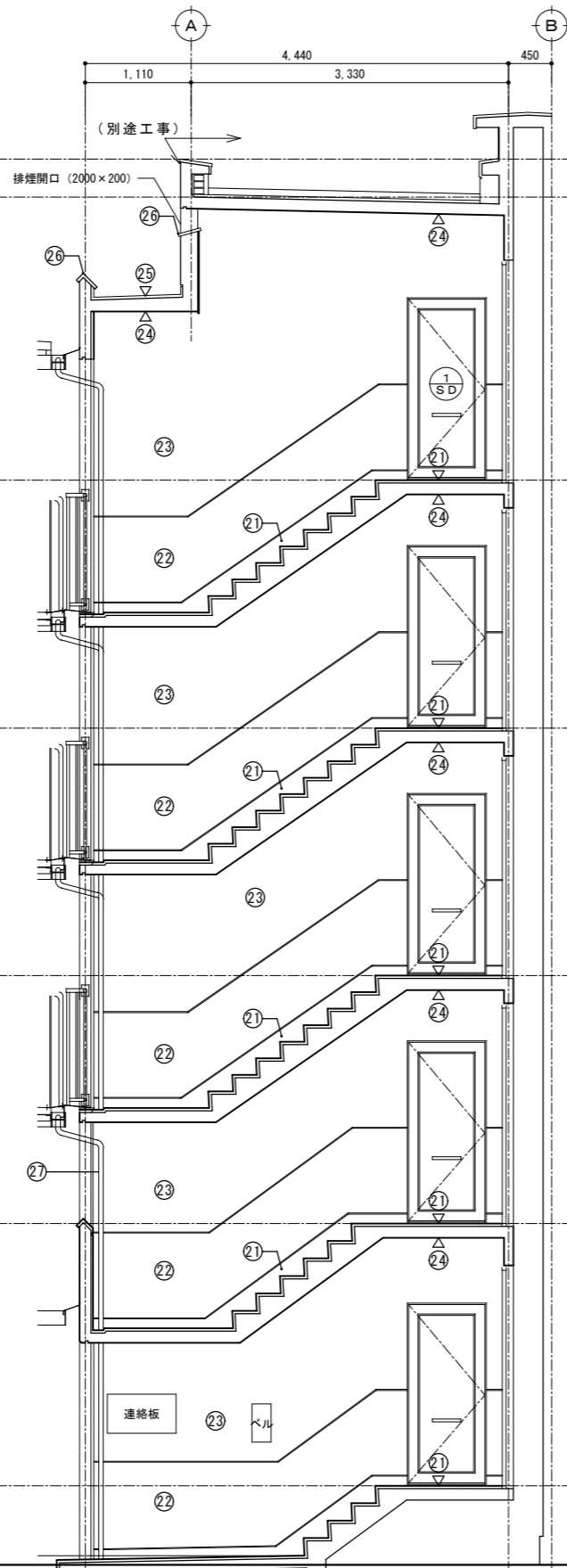
建具配置図 (基準階) 1/150



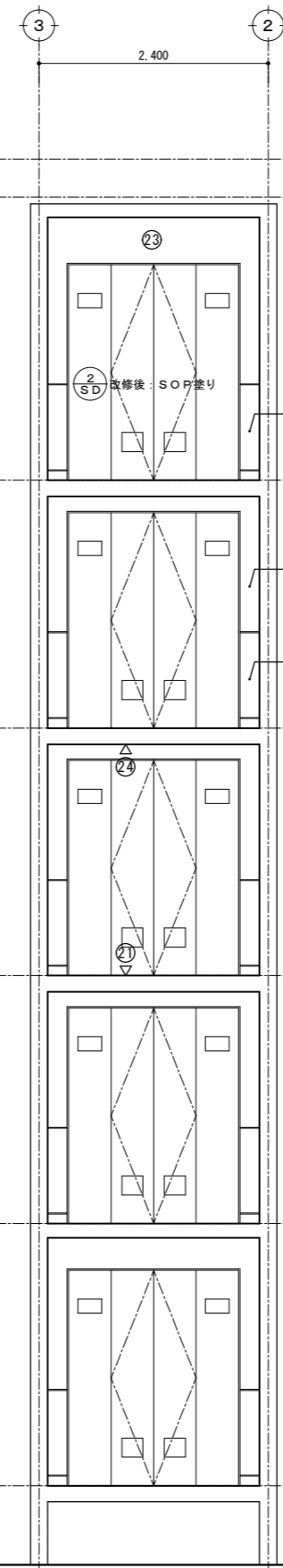
建具配置図 (1F) 1/150



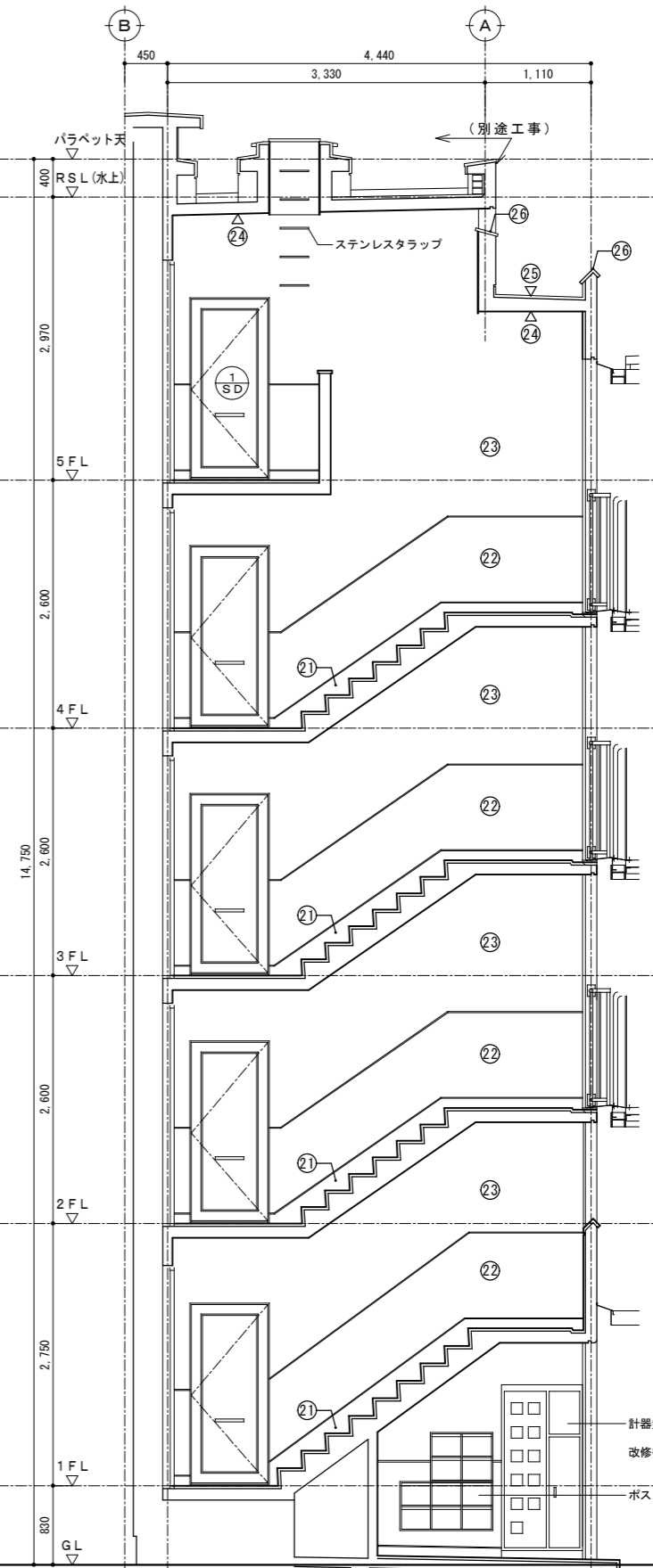
階段展開 A面



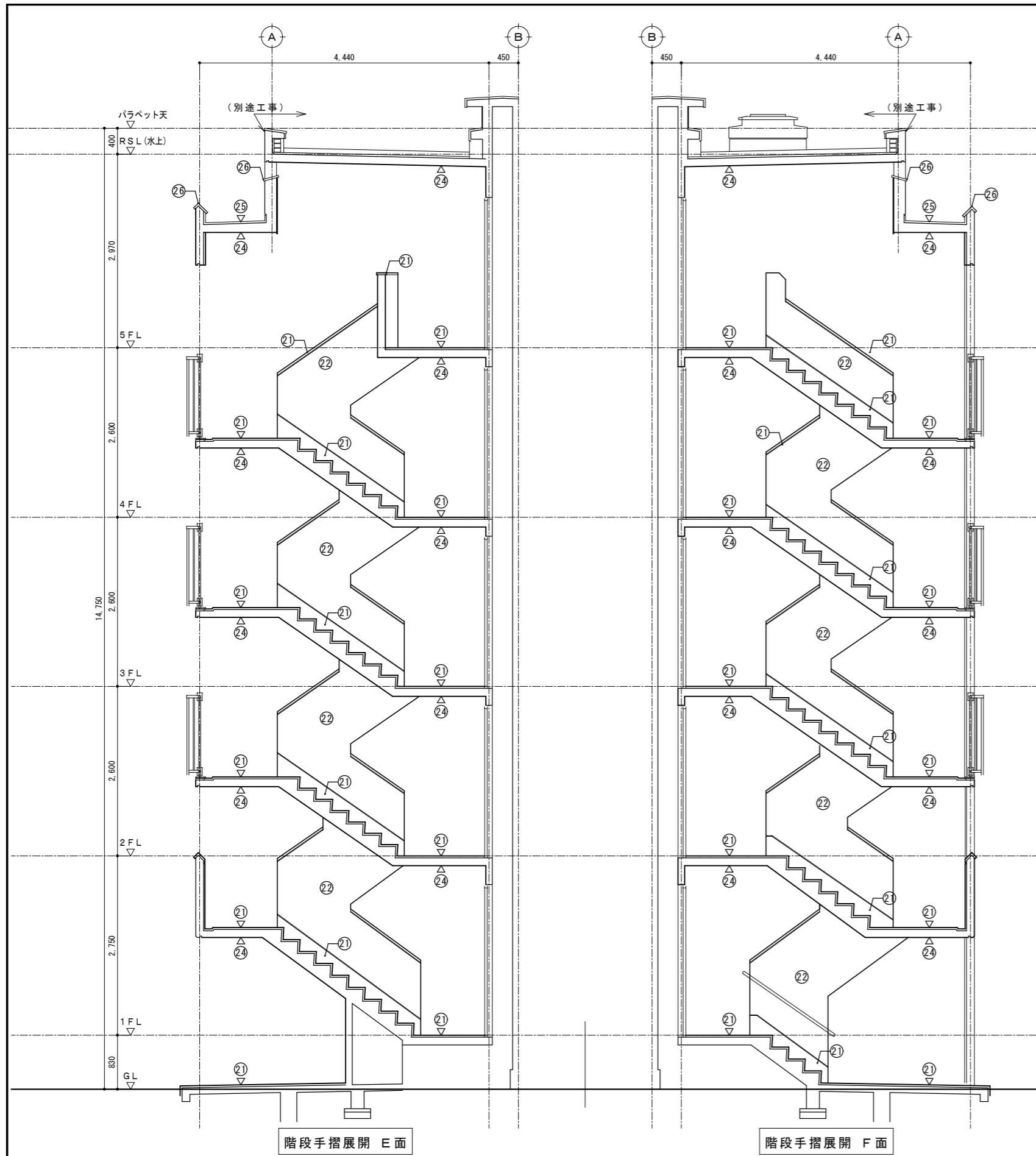
階段展開 B面



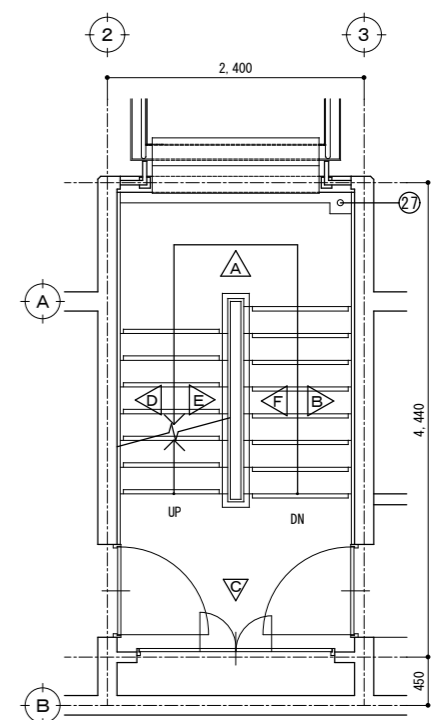
階段展開 C面



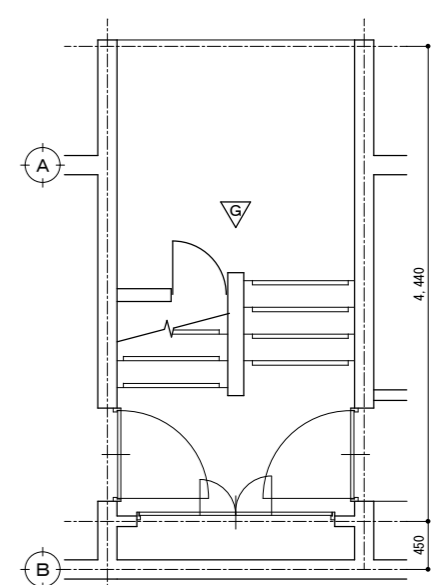
階段展開 D面



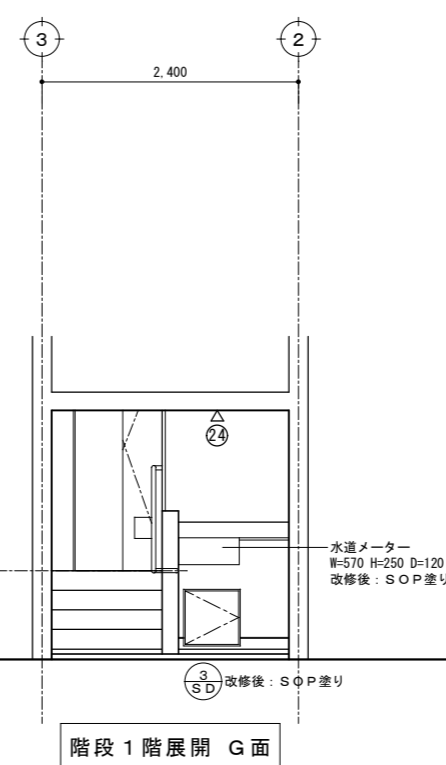
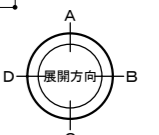
①	階段室床・幅木	防水モルタルコテ押え	現状のまま
②	階段室腰壁	モルタルコテ磨き AEP塗り	水洗い清掃、下地調整の上、EP塗り
③	階段室壁	モルタル刷毛引きの上、スキン吹付 既存塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、外装薄塗材E吹付
④	階段室天井	コンクリート打ち放しの上、スキン吹付 既存塗膜除去(サンダー工法)	水洗い清掃、下地調整(C-1)の上、外装薄塗材E吹付
⑤	階段室屋上	防水モルタルコテ押え	現状のまま
⑥	階段室屋上笠木	防水モルタルコテ押え	水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水(X-2)
⑦	階段室樋	VP50φ VP塗り	現状のまま



展開方向(基準階)

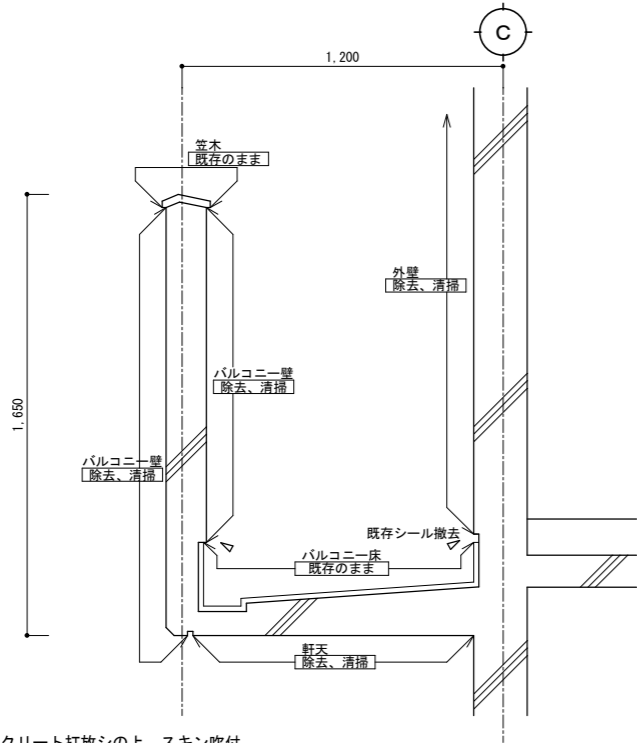


展開方向(1階)



階段1階展開 G面

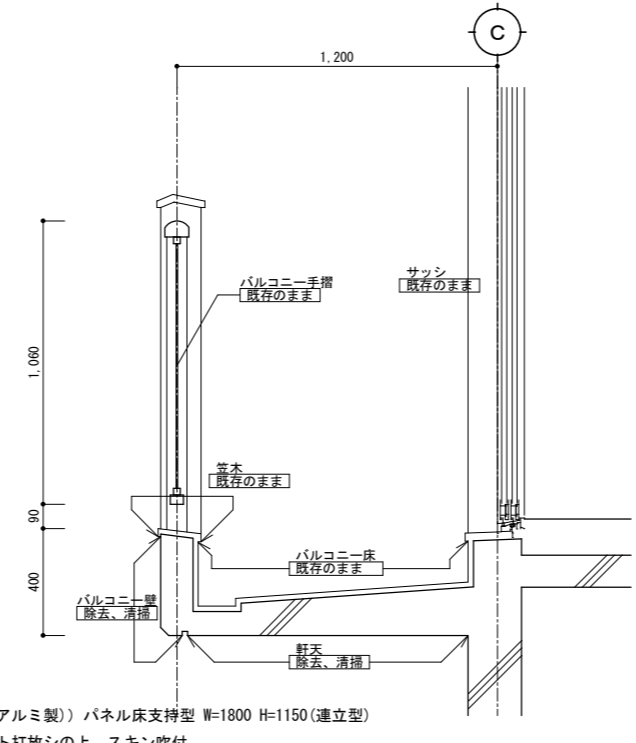
バルコニー (A-A') 断面詳細図 改修前 1/20



外壁・バルコニー壁：コンクリート打放シの上、スキン吹付
 既存外壁塗膜除去(サンダー工法)
 軒天：コンクリート打放シの上、シリカ系リシン吹付
 既存塗膜除去(サンダー工法)
 笠木：防水モルタルコテ押エ
 バルコニー床：防水モルタルコテ押エ

改修前

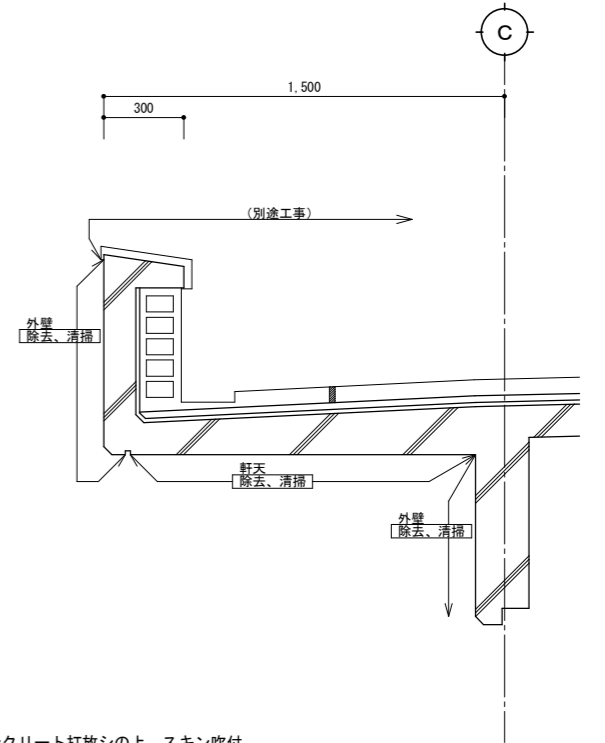
バルコニー (B-B') 断面詳細図 改修前 1/20



バルコニー手摺：B L型 (アルミ製) パネル床支持型 W=1800 H=1150 (連立型)
 バルコニー壁：コンクリート打放シの上、スキン吹付
 既存塗膜除去(サンダー工法)
 軒天：コンクリート打放シの上、シリカ系リシン吹付
 既存塗膜除去(サンダー工法)
 笠木：防水モルタルコテ押エ
 バルコニー床：防水モルタルコテ押エ

改修前

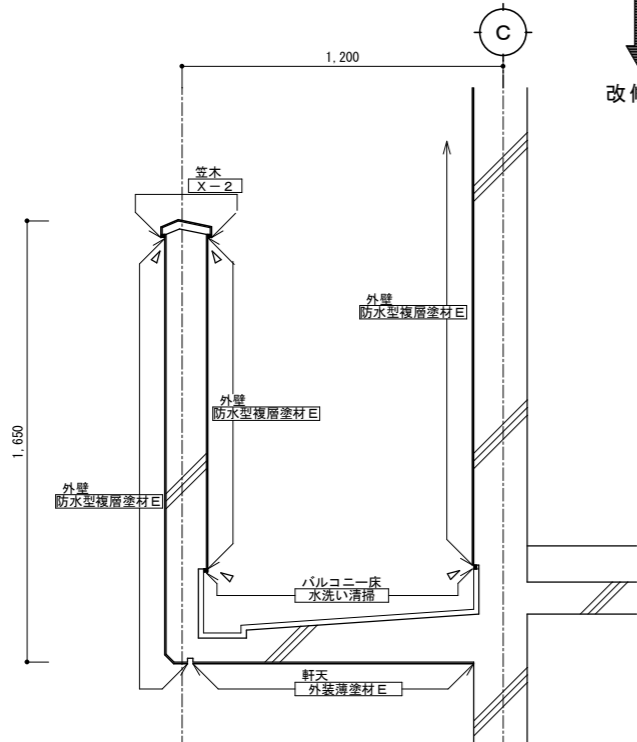
屋上 (C-C') 断面詳細図 改修前 1/20



外壁・バルコニー壁：コンクリート打放シの上、スキン吹付
 既存塗膜除去(サンダー工法)
 軒天：コンクリート打放シの上、シリカ系リシン吹付
 既存塗膜除去(サンダー工法)

改修前

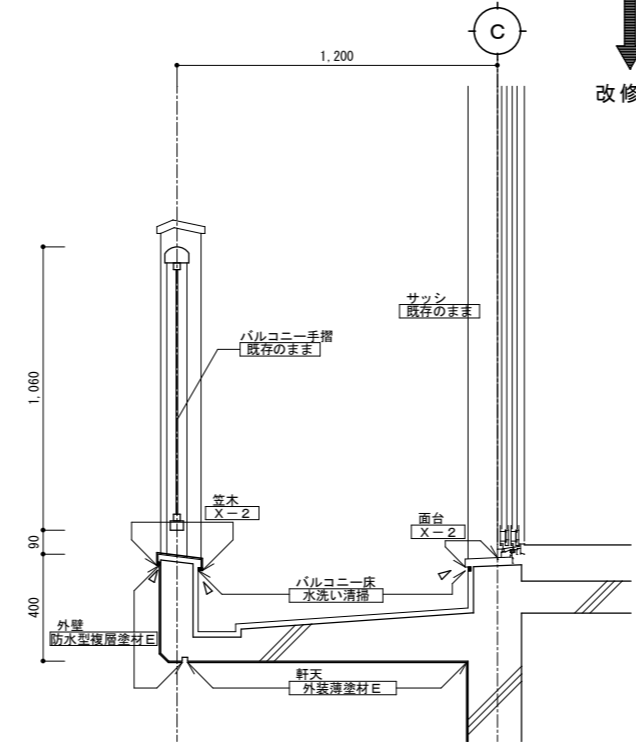
バルコニー (A-A') 断面詳細図 改修後 1/20



外壁・バルコニー壁：水洗い清掃、下地調整 (C-1) の上、防水型複層塗材E吹付
 軒天：水洗い清掃、下地調整 (C-1) の上、外装薄塗材E吹付
 笠木：水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水 (X-2)
 バルコニー床：水洗い清掃

改修後

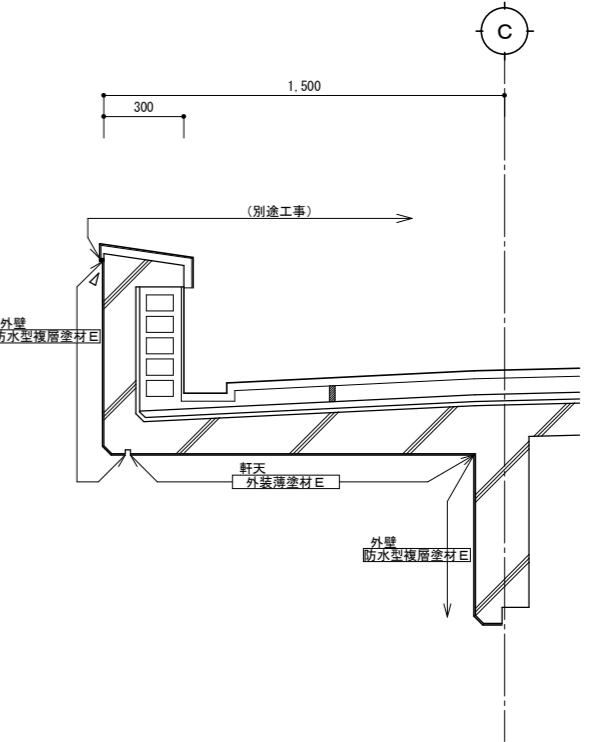
バルコニー (B-B') 断面詳細図 改修後 1/20



バルコニー手摺：既存のまま
 バルコニー壁：水洗い清掃、下地調整 (C-1) の上、防水型複層塗材E吹付
 軒天：水洗い清掃、下地調整 (C-1) の上、外装薄塗材E吹付
 笠木：水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水 (X-2)
 バルコニー床：水洗い清掃

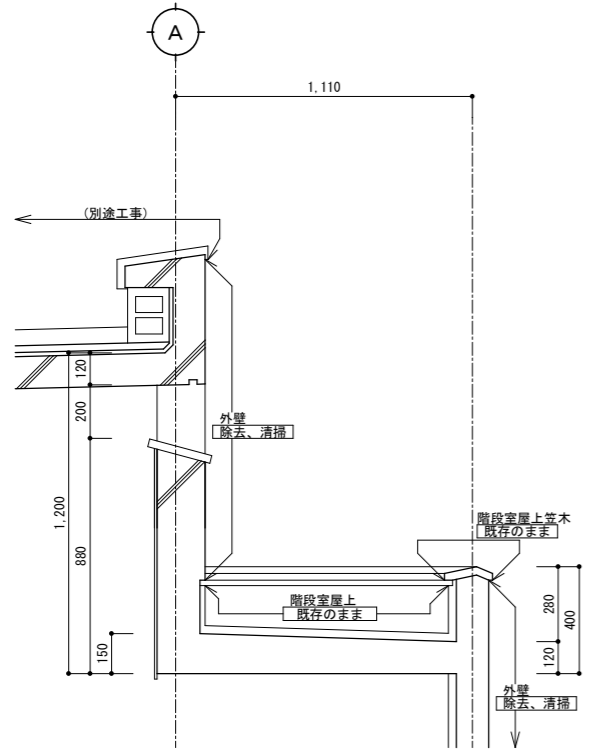
改修後

屋上 (C-C') 断面詳細図 改修後 1/20



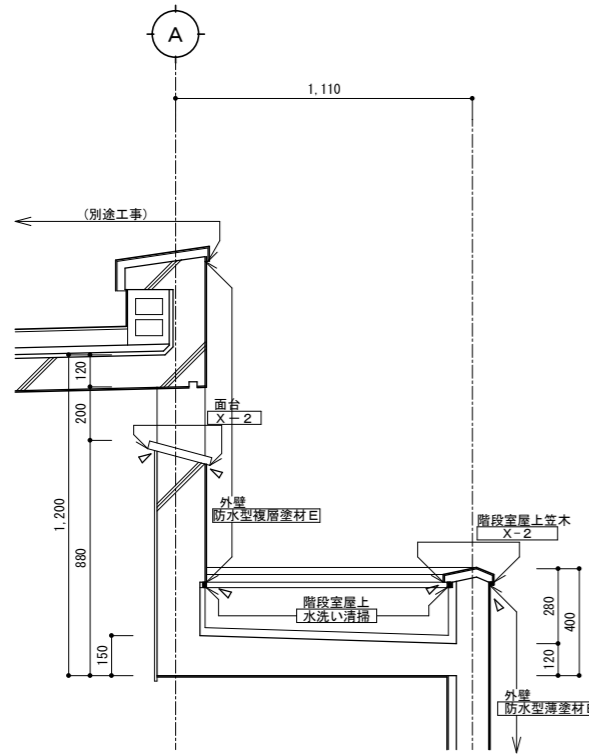
外壁・バルコニー壁：水洗い清掃、下地調整 (C-1) の上、防水型複層塗材E吹付
 軒天：水洗い清掃、下地調整 (C-1) の上、外装薄塗材E吹付

改修後



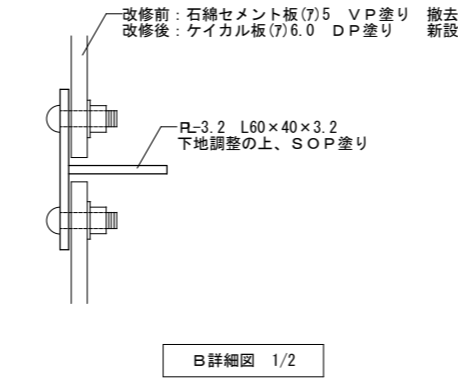
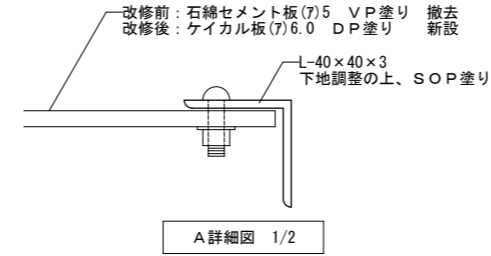
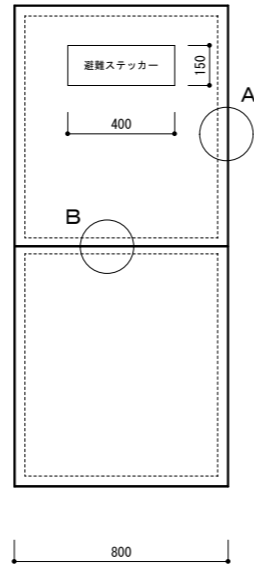
外壁：コンクリート打放シの上、スキン吹付
既存塗膜除去(サンダー工法)
階段室屋上笠木：防水モルタルコテ押エ
階段室屋上：防水モルタルコテ押エ

改修前

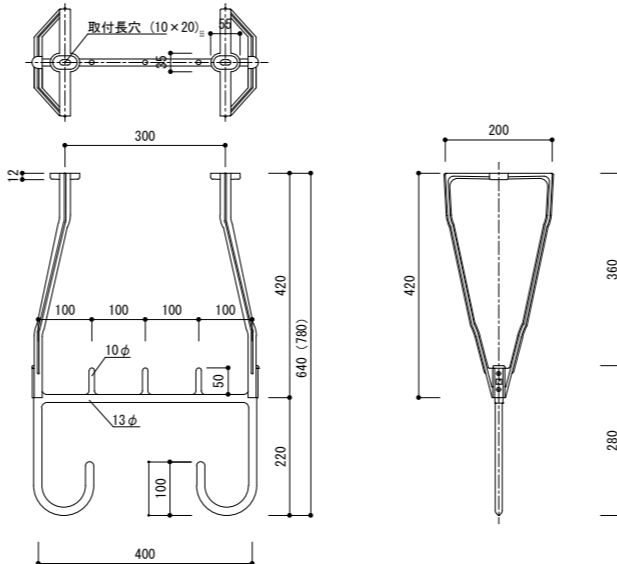


外壁：水洗い清掃、下地調整 (C-1) の上、防水型複層薄塗材E吹付
階段室屋上笠木：水洗い清掃、下地調整の上、ウレタン塗膜防水 (X-2)
階段室屋上：水洗い清掃

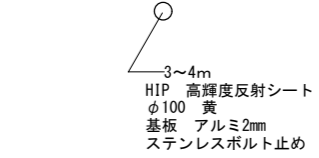
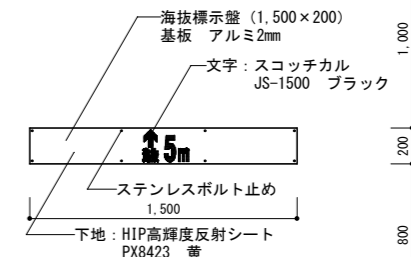
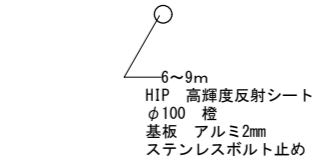
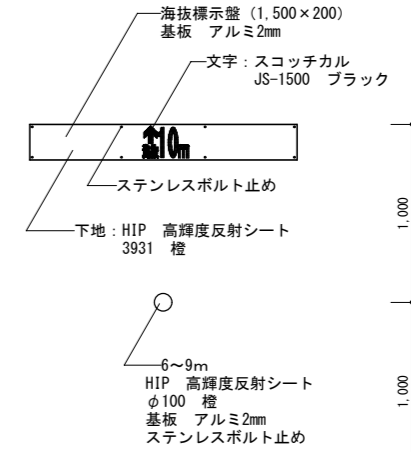
改修後



バルコニー隔板：改修前 石綿セメント板(7)5 VP塗り 撤去
スチール枠材：OP塗り 現況のまま
改修後 ケイカル板(7)6.0 DP塗り 新設
スチール枠材：下地調整の上、SOP塗り
両面避難ステッカー：150×400 材質：アルミ箔t=0.24 シルク印刷(下地：イエロー・文字：黒と赤) 新設
(表示文)非常の際には、ここを破って隣戸へ避難出来ます。避難のためこの附近に物を置かないでください。



物干金物：改修前 アルミ製 (固定式) 撤去
改修後 アルミ製 (固定式) 新設 ※既存インサート再利用



取付高さは測量法に規定する有資格者により現場測量の上、位置決めを行う。左右取り付け位置は現場指示による。